

(様式第 10)

国がん発 第 220 号
令和

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

国立研究開発法人国
理事長 中釜 亨

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院の業務に関する報告

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
氏 名	国立研究開発法人国立がん研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院

3 所在の場所

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1	電話 (03) 3542-2511 (代表)
--------------------------	------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input checked="" type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
<input checked="" type="radio"/> 1 呼吸器内科	<input checked="" type="radio"/> 2 消化器内科	<input checked="" type="radio"/> 3 循環器内科	4 腎臓内科
5 神経内科	<input checked="" type="radio"/> 6 血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11 リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 <input checked="" type="checkbox"/> 1呼吸器外科 <input checked="" type="checkbox"/> 2消化器外科 <input checked="" type="checkbox"/> 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 <input checked="" type="checkbox"/> 8小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

<input checked="" type="checkbox"/> 1精神科 <input checked="" type="checkbox"/> 2小児科 <input checked="" type="checkbox"/> 3整形外科 <input checked="" type="checkbox"/> 4脳神経外科 <input checked="" type="checkbox"/> 5皮膚科 <input checked="" type="checkbox"/> 6泌尿器科 7産婦人科 8産科 <input checked="" type="checkbox"/> 9婦人科 <input checked="" type="checkbox"/> 10眼科 <input checked="" type="checkbox"/> 11耳鼻咽喉科 <input checked="" type="checkbox"/> 12放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 <input checked="" type="checkbox"/> 15麻酔科 16救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 <input checked="" type="checkbox"/> 3口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1緩和ケア内科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	578床	578床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	344人	10.6人	354.6人	看護補助者	55人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	1.2人	5.2人	理学療法士	4人	臨床検査技師	86人
薬 剤 師	59人	14.2人	73.2人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	1人	その他	0人
助産師	0人	0人	0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	672人	13人	685人	臨床工学士	11人	医療社会事業従事者	11人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	63人
歯科衛生士	3人	0.8人	3.8人	歯科技工士	1人	事務職員	190人
管理栄養士	7人	1.5人	8.5人	診療放射線技師	71人	その他の職員	140人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	40人	眼科専門医	1人
外科専門医	45人	耳鼻咽喉科専門医	6人
精神科専門医	6人	放射線科専門医	25人
小児科専門医	9人	脳神経外科専門医	7人
皮膚科専門医	2人	整形外科専門医	6人
泌尿器科専門医	10人	麻酔科専門医	8人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	0人
		合 計	178人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (西田 俊朗) 任命年月日 平成28年4月1日

平成25年8月～平成28年3月まで、国立研究開発法人国立がん研究センター東病院病院長として、医療事故等防止対策委員会委員長の業務経験あり。
 平成28年4月以降、国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院病院長として、医療事故等防止対策委員会委員長の業務に携わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	537.5人	0人	537.5人
1日当たり平均外来患者数	1476.9人	55.8人	1532.8人
1日当たり平均調剤数	入院：520.1剤 外来：83剤		
必要医師数	141.0325人		
必要歯科医師数	2人		
必要薬剤師数	18人		
必要（准）看護師数	320人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備	概 要		
集中治療室	216.7m ²	鉄骨構造	病床数	8床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	472.42m ²	病床数	39床	
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	55.46m ²			
		[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	662.9m ²	鉄骨構造	多項目自動血球分析装置、血液凝固測定装置、全自動免疫化学分析測定装置、全自動化学発光測定装置、生化学用自動分析装置、全自動薬物濃度測定装置、尿自動分析装置			
細菌検査室	161.04m ²	鉄骨構造	同定・薬剤感受性パネル自動測定装置、血液培養自動分析装置			
病理検査室	490.59m ²	鉄骨構造	自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片作製装置、自動封入装置、密閉式自動固定包埋装置、対面作業用下降流プッシュプル型換気装置			
病理解剖室	142.15m ²	鉄骨構造	ホルマリン作製装置			
研究室	38,936.15m ²	鉄骨鉄筋コンクリート等	研究所棟、疫病ヒトゲノムセンター棟、中央病院内がん対策情報センター部室			
講義室	887.03m ²	鉄骨構造	室数	4室	収容定員	50～300人
図書室	376.64m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	9万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	103.2%	逆紹介率	79.3%
算出根拠	A：紹介患者の数		10509人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8385人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		394人
	D：初診の患者の数		10569人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
大西 真	国立国際医療研究センター 病院長	○	特定機能病院の医療安全体制に精通	有・無	1
川崎志保理 (第二回外部監査委員会より)	順天堂大学医学部 附属順天堂医院医療安全推進部 部長 補佐		特定機能病院の医療安全体制に精通	有・無	1
田島 優子	さわやか法律事務所 弁護士		法律関係に精通	有・無	1
眞島 善幸	NPO法人 パンキャンジャパン 代表		患者団体の役員として医療問題に精通	有・無	2
荒井 保明	国立がん研究センター 理事長特任補佐		当院の前病院長として院内診療・医療安全管理体制を熟知	有・無	1
廣田 正実 (第一回外部監査委員会のみ)	国立がん研究センター 統括事務部長		当院の統括事務部長として病院の体制・組織等に精通	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法 病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺癌(扁平上皮肺癌及び小細胞肺癌を除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	0 人
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が1.5センチメートル以下のものに限る。)	0 人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	3 人
術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法(切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。))	0 人
テモゾロミド用量強化療法(膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。))	1 人
アキシチニブ単剤投与療法 胆道がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、ゲムシタビンによる治療に対して抵抗性を有するものに限る。)	0 人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されたものに限る。)	5 人
陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【外科的治療を実施する施設】	0 人
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	30 人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中樞神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	2 人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 固形がん(根治切除が不可能又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	164 人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 平成30年度は特になし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

4 指定難病についての診療

患者数	疾患名	患者数	疾患名	患者数
56	球脊髄性筋萎縮症		ベーチェット病	9
1	筋萎縮性側索硬化症	57	特発性拡張型心筋症	11
	脊髄性筋萎縮症	58	肥大型心筋症	16
	原発性側索硬化症	59	拘束型心筋症	
2	進行性核上性麻痺	60	再生不良性貧血	25
29	パーキンソン病	61	自己免疫性溶血性貧血	68
	大脳皮質基底核変性症	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	
	ハンチントン病	63	特発性血小板減少性紫斑病	76
	神経有棘赤血球症	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
	シャルコー・マリー・トゥース病	65	原発性免疫不全症候群	1
17	重症筋無力症	66	IgA 腎症	5
	先天性筋無力症候群	67	多発性嚢胞腎	
3	多発性硬化症／視神経脊髄炎	68	黄色靱帯骨化症	
	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	69	後縦靱帯骨化症	6
	封入体筋炎	70	広範脊柱管狭窄症	
	クロウ・深瀬症候群	71	特発性大腿骨頭壊死症	
	多系統萎縮症	72	下垂体性ADH分泌異常症	
5	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	下垂体性TSH分泌亢進症	
	ライソゾーム病	74	下垂体性PRL分泌亢進症	
	副腎白質ジストロフィー	75	クッシング病	4
	ミトコンドリア病	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
3	もやもや病	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
	プリオン病	78	下垂体前葉機能低下症	
	亜急性硬化性全脳炎	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
1	進行性多巣性白質脳症	80	甲状腺ホルモン不応症	
	HTLV-1関連脊髄症	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
	特発性基底核石灰化症	82	先天性副腎低形成症	
	全身性アミロイドーシス	83	アジソン病	1
	ウルリッヒ病	84	サルコイドーシス	15
	遠位型ミオパチー	85	特発性間質性肺炎	26
	ベスレムミオパチー	86	肺動脈性肺高血圧症	
	自己食空腔性ミオパチー	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
	シュワルツ・ヤンベル症候群	88	慢性血栓性肺高血圧症	
10	神経線維腫症	89	リンパ脈管筋腫症	
	天疱瘡	90	網膜色素変性症	
	表皮水疱症	91	バッド・キアリ症候群	2
	膿疱性乾癬(汎発型)	92	特発性門脈圧亢進症	
	スティーヴンス・ジョンソン症候群	93	原発性胆汁性肝硬変	146
	中毒性表皮壊死症	94	原発性硬化性胆管炎	
	高安動脈炎	95	自己免疫性肝炎	14
	巨細胞性動脈炎	96	クローン病	5
1	結節性多発動脈炎	97	潰瘍性大腸炎	67
	顕微鏡的多発血管炎	98	好酸球性消化管疾患	
	多発血管炎性肉芽腫症	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
3	悪性関節リウマチ	101	腸管神経節細胞減少症	
5	バージャー病	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
	原発性抗リン脂質抗体症候群	103	CFC症候群	
13	全身性エリテマトーデス	104	コステロ症候群	
8	皮膚筋炎／多発性筋炎	105	チャージ症候群	
3	全身性強皮症	106	クリオピリン関連周期性熱症候群	
2	混合性結合組織病	107	全身型若年性特発性関節炎	
368	シェーグレン症候群	108	TNF受容体関連周期性症候群	
	成人スチル病	109	非典型溶血性尿毒症症候群	
	再発性多発軟骨炎	110	ブラウ症候群	

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	161	家族性良性慢性天疱瘡	
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	
113 筋ジストロフィー	163	特発性後天性全身性無汗症	
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164	眼皮膚白皮症	
115 遺伝性周期性四肢麻痺	165	肥厚性皮膚骨膜炎	
116 アトピー性脊髄炎	166	弾性線維性仮性黄色腫	
117 脊髄空洞症	1	167 マルフアン症候群	1
118 脊髄髄膜瘤	168	168 エーラス・ダンロス症候群	
119 アイザックス症候群	169	169 メンケス病	
120 遺伝性ジストニア	170	170 オクシピタル・ホーン症候群	
121 神経フェリチン症	171	171 ウィルソン病	
122 脳表ヘモジデリン沈着症	172	172 低ホスファターゼ症	
123 弁頭と変形性骨椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173	173 VATER症候群	
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174	174 那須・ハコラ病	
125 神経鞘索スフェロイド形成を伴う遺伝性7p主性白質脳症	175	175 ウィーバー症候群	
126 ペリー症候群	176	176 コフィン・ローリー症候群	
127 前頭側頭葉変性症	177	177 有馬症候群	
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	178	178 モワット・ウィルソン症候群	
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	179	179 ウィリアムズ症候群	
130 先天性無痛無汗症	180	180 ATR-X症候群	
131 アレキサンダー病	181	181 クルーゾン症候群	
132 先天性核上性球麻痺	182	182 アペール症候群	
133 メビウス症候群	183	183 ファイファー症候群	
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184	184 アントレー・ピクスラー症候群	
135 アイカルディ症候群	185	185 コフィン・シリズ症候群	
136 片側巨脳症	186	186 ロスムンド・トムソン症候群	
137 限局性皮質異形成	187	187 歌舞伎症候群	
138 神経細胞移動異常症	188	188 多脾症候群	
139 先天性大脳白質形成不全症	189	189 無脾症候群	
140 ドラベ症候群	190	190 鰓耳腎症候群	
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191	191 ウェルナー症候群	
142 ミオクロニー欠神てんかん	192	192 コケイン症候群	
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193	193 ブラダー・ウィリ症候群	
144 レノックス・ガストー症候群	194	194 ソトス症候群	
145 ウエスト症候群	195	195 ヌーナン症候群	
146 大田原症候群	196	196 ヤング・シンプソン症候群	
147 早期ミオクロニー脳症	197	197 1p36欠失症候群	
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198	198 4p欠失症候群	
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199	199 5p欠失症候群	
150 環状20番染色体症候群	200	200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151 ラスムッセン脳炎	201	201 アンジェルマン症候群	
152 PCDH19関連症候群	202	202 スミス・マギニス症候群	
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	203	203 22q11.2欠失症候群	
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204	204 エマヌエル症候群	
155 ランドウ・クレフナー症候群	205	205 脆弱X症候群関連疾患	
156 レット症候群	206	206 脆弱X症候群	
157 スタージ・ウェーバー症候群	207	207 総動脈幹遺残症	
158 結節性硬化症	1	208 修正大血管転位症	
159 色素性乾皮症	1	209 完全大血管転位症	
160 先天性魚鱗癬	210	210 単心室症	

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランス フェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腱黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モフト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎	2	268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・ア クネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群		270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	1	274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	90	276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形（頸部顔面病変）	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形（頸部口腔咽頭びまん性病 変）	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形（頸部顔面又は四肢病 変）	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症 候群	
234	ベルオキシソーム病（副腎白質ジストロ フィーを除く。）		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	89	283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンコニ貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7	286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	10	287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病（全結腸型又は小腸 型）	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イン吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性痔炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ボルフィリン症	1	302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシャー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトラ ンスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病		319	セピアプテリン還元酵素 (SR) 欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシ トール (GPI) 欠損症	
309	進行性ミオクローヌスてんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群 (爪膝蓋骨症候群) / LMX1B 関連腎症		327	特発性血栓症 (遺伝性血栓性素因による ものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・診療録管理体制加算1	・歯科外来診療環境体制加算2
・医師事務作業補助体制加算1(50対1)	以上
・(25対1未)急性期看護補助体制加算	
・看護職員夜間配置加算(16対1配置加算1)	
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・がん拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1+感染防止対策地域連携加算+抗菌薬適正使用加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・後発医薬品使用体制加算1	
・病棟薬剤業務実施加算1	
・病棟薬剤業務実施加算2	
・データ提出加算2イ	
・入退院支援加算1+入院時支援加算	
・認知症ケア加算2	
・特定集中治療室管理料1	
・小児入院医療管理料3	
・入院時食事療養費(I)	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん性疼痛緩和指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・がん患者指導管理料イ	・CT透視下気管支鏡検査加算
・がん患者指導管理料ロ	・画像診断管理加算1
・がん患者指導管理料ハ	・画像診断管理加算3
・外来緩和ケア管理料	・ポジトロン断層撮影
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・外来リハビリテーション診療料	・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影
・外来放射線照射診療料	・CT撮影及びMRI撮影
・ニコチン依存症管理料	・大腸CT撮影加算
・療養・就労両立支援指導料 注2)相談体制充実加算	・乳房MRI撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・頭部MRI撮影加算
・がん治療連携管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来がん患者在宅連携指導料	・外来化学療法加算1
・排尿自立指導料	・無菌製剤処理料
・薬剤管理指導料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
・医療機器安全管理料1	・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅱ)
・医療機器安全管理料2	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・がん患者リハビリテーション料
・遺伝学的検査	・リンパ浮腫複合的治療料
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・センチネルリンパ節加算
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合)
・国際標準検査管理加算	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・神経学的検査	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・遺伝カウンセリング加算	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・内服・点滴誘発試験	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩廓清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩廓清を伴うもの))	・1回線量増加加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下肝切除術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・画像誘導密封小線源治療加算
・外来放射線照射診療料	・保険医療機関間の連携による病理診断
・ニコチン依存症管理料	・病理診断管理加算2
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・う蝕歯無痛的窩洞形成加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・手術時歯根面レーザー応用加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・輸血管理料 I	・口腔粘膜処置
・輸血適正使用加算	・レーザー機器加算
・コーディネート体制充実加算	・歯科治療時医療管理料
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・歯科技工加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	以上
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				委	元
産学連携全国がんゲノムスクリーニング(SCRUM-Japan)患者レジストリを活用したHER2陽性の切除不能または再発胆道癌に対する医師主導治験	森実千種	肝胆膵内科	32,999,999	委	AMED
がん領域Clinical Innovation Network事業による超希少がんの臨床開発と基盤整備を行う総合研究	米盛勸	乳腺・腫瘍内科	70,000,000	委	AMED
がん遺伝子プロファイリング検査の実用化に向けた研究	山本昇	先端医療科	44,000,000	委	AMED
アレクチニブの小児難治悪性固形腫瘍に対する安全性および有効性についてのエビデンスの創出をめざした研究	荒川歩	小児腫瘍科	27,000,000	委	AMED
日本発放射性薬剤 ⁶⁴ Cu-ATSMを用いた悪性脳腫瘍に対する革新的治療法の開発研究	栗原宏明	放射線診断科	44,000,000	委	AMED
実用的な遺伝子発現比により選別されたトリプルネガティブ乳癌を対象とする抗アンドロゲン薬エンザルタミドの第II相医師主導治験	谷岡 真樹	乳腺・腫瘍内科	3,900,000	委	AMED
生差に基づく至適薬物療法の検討	岩佐悟	消化管内科	6,000,000	委	AMED
8Kスーパーハイビジョン技術を用いた新しい内視鏡(硬性鏡)手術システムの開発と高精細映像データの利活用	金光幸秀	大腸外科	35,123,416	委	AMED
切除不能大腸がんに対するレンバチニブの医師主導治験の治験調整管理に関する研究	岩佐悟	先端医療科	17,270,032	委	AMED
切除不能または再発胸腺癌に対するレンバチニブの多施設共同第II相試験	山本昇	先端医療科	23,100,168	委	AMED
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブ単剤治療とゲフィチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験(ICOG1404/WJOG8214L-AGAIN)	大江裕一郎	呼吸器内科	15,750,000	委	AMED
眼部腫瘍の全国症例登録システムの構築に関する研究	鈴木茂伸	眼腫瘍科	7,600,000	委	AMED
がん薬物療法におけるexceptional responseをもたらす遺伝子異常の研究と治療開発	山本昇	先端医療科	18,050,000	委	AMED
急性型およびリンパ腫型成人T細胞白血病のゲノム解析とバイオマーカーに基づいた造血幹細胞移植の最適化に関する研究	福田隆浩	造血幹細胞移植科	27,070,000	委	AMED
多施設共同遺伝性腫瘍「汎用プロトコル」の臨床疫学的データに基づく、ゲノム情報で規定される超高リスク群捕捉法の確立	吉田輝彦	遺伝子診療部門	50,050,000	委	AMED
TERTを標的とした再発膠芽腫に対するエリプリンの医師主導治験	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	52,780,000	委	AMED
トレーサビリティの確保された線源と画像誘導を利用した高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究	伊丹純	放射線治療科	17,100,000	委	AMED
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療と最適化標準治療に関する研究	岩佐悟	消化管内科	11,770,000	委	AMED
根治が見込める癌に対する外科侵襲の軽減とQOL改善を目指した標準治療法確立のための多施設共同第三相試験	島田和明	肝胆膵外科	12,910,000	委	AMED
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	片井均	胃外科	19,000,000	委	AMED
標準的乳がんラジオ波熱焼灼療法確立のための多施設共同臨床研究	木下貴之	乳腺外科	19,000,000	委	AMED
非浸潤または小型非小細胞肺癌に対する機能温存手術の確立に関する研究	渡辺俊一	呼吸器外科	19,000,000	委	AMED

分子標的治療薬によるび瘡様皮膚炎に対する標準的ケア方法の確立に関する研究	野澤桂子	アピアランス支援センター	7,080,000	委	AMED
急性型およびリンパ腫型成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立	福田隆浩	造血幹細胞移植科	20,000,000	委	AMED
予後不良の神経腫瘍に対する標準治療の確立と希少癌組織のバイオバンクを目的とした多施設共同研究	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	19,000,000	委	AMED
小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究	金光幸秀	大腸外科	19,000,000	委	AMED
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適な分子標的療法と高齢者評価ツールの確立および治療効果と毒性に関するバイオマーカーの探索的研究	丸山大	血液腫瘍科	12,350,000	委	AMED
胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	奥坂拓志	肝胆膵内科	17,580,000	委	AMED
消化器神経内分泌癌に対する標準治療の確立に関する研究	森実千種	肝胆膵内科	18,530,000	委	AMED
皮膚悪性黒色腫に対するインターフェロンβ局所注射による術後補助療法の開発に関する研究(JCOG1309)	並川健二郎	皮膚腫瘍科	9,050,000	委	AMED
リアルタイム組織イメージングが可能な共焦点レーザー顕微内視鏡を用いたオプティカルバイオプシーの臨床応用と適応拡大	高丸博之	内視鏡科	12,977,240	委	AMED
進行・再発子宮頸癌の予後向上を目指した集学的治療の開発	石川 光也	婦人腫瘍科	10,040,000	委	AMED
難治急性リンパ性白血病に対するボルテゾミブ追加多剤併用療法の医師主導第Ⅱ相試験	小川千登世	小児腫瘍科	49,400,000	委	AMED
局所進行食道癌に対する新しい術前治療を確立する研究	加藤健	消化管内科	10,290,000	委	AMED
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	大幸宏幸	食道外科	19,155,000	委	AMED
高齢者HER2陽性進行乳癌に対するT-DM1療法とペルツスマブ+トラスツズマブ+ドセタキセル療法のランダム化比較第Ⅲ相試験	田村研治	乳腺・腫瘍内科	19,482,500	委	AMED
非小細胞肺癌に対するPD-1経路阻害薬の継続と休止に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	後藤梯	呼吸器内科	19,500,000	委	AMED
腎機能低下時、軽体重時におけるオシメルチニブ療法の薬物動態、用量反応関係を検討する第Ⅰ相試験	山本昇	呼吸器内科/先端医療科	13,000,000	委	AMED
腫瘍細胞内のチロシンキナーゼ活性化部位の同定とそれに基づく創薬基盤の開発	西田俊朗	中央病院	5,330,000	補	文部科学省
分子Xを標的としたCAR-T 免疫療法の開発	吉村清	先端医療科	1,820,000	補	文部科学省
プロテオゲノミクスによる悪性骨軟部腫瘍の新たなバイオマーカーの探索とその応用	川井章	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	5,590,000	補	文部科学省
悪性脳腫瘍患者のQOL研究の確立と患者背景・治療がQOLに与える影響因子の解析	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	0	補	文部科学省
IPMNに対する悪性予測モデルの提唱	肱岡範	肝胆膵内科	650,000	補	文部科学省
病院設置型加速器ホウ素中性子捕捉療法に向けた基礎的研究と治療適格条件の検討	井垣浩	放射線治療科	1,560,000	補	文部科学省
神経腫瘍における免疫逃避機序と遺伝子変異・予後との関係の解明	大野誠	脳脊髄腫瘍科	1,560,000	補	文部科学省
放射線増強効果をもつプロドラッグ遺伝子治療システムによる新規膠芽腫治療法の開発	高橋雅道	脳脊髄腫瘍科	1,690,000	補	文部科学省
新規抗体医薬適用患者における免疫モニタリング法の整備とその臨床応用に関する研究	山下万貴子	先端医療科	1,430,000	補	文部科学省

複合免疫療法に向けた各種抗がん剤の免疫抑制解除効果の検証とバイオマーカー探索研究	北野滋久	先端医療科	1,430,000	補	文部科学省
病理-NGSゲノム解析のシームレス早期頭頸部扁平上皮癌診断法の確立と治療薬の探索	森泰昌	病理・臨床検査科	1,170,000	補	文部科学省
大腸腫瘍におけるWNT関連遺伝子変異の解析	関根茂樹	病理・臨床検査科	1,430,000	補	文部科学省
小細胞肺癌におけるアムルピシン治療最適化のための効果予測因子の同定	藤原豊	先端医療科	1,820,000	補	文部科学省
難治性希少肉腫である淡明細胞肉腫の治療標的となるゲノム異常の探索	岩田慎太郎	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	1,950,000	補	文部科学省
ARID1A欠失型卵巣明細胞がんにおける患者モデルの確立-新規治療法有効性の検討	加藤友康	婦人腫瘍科	1,820,000	補	文部科学省
進行卵巣癌患者血中・腹水中エクソソーム関連分子による抗がん薬効果予測モデルの構築	植原貴史	婦人腫瘍科	1,430,000	補	文部科学省
唾液メタボローム解析によるがん口腔合併症のリスク因子解明、及び新たな治療法の確立	上野尚雄	歯科	1,560,000	補	文部科学省
膝がん組織3次リンパ装置の形成・維持に関する研究	平岡伸介	病理・臨床検査科	2,210,000	補	文部科学省
がん免疫療法効果予測に資する病理学的指標の探索	元井紀子	病理・臨床検査科	1,690,000	補	文部科学省
血中循環去勢抵抗性前立腺がん細胞に対する相同組換え機能試験の開発	原智彦	泌尿器後腹膜腫瘍科	1,950,000	補	文部科学省
大腸前がん病変である鋸歯状病変の内視鏡診断学確立のための研究	山田真善	内視鏡科	1,820,000	補	文部科学省
造血細胞移植後の晩期障害のバイオマーカーと病態解明	稲本賢弘	造血幹細胞移植科	1,170,000	補	文部科学省
子どもをもつがん患者への支援モデルの開発	小嶋リベカ	緩和医療科	1,300,000	補	文部科学省
がん患者の信頼感に及ぼす医師の面談行動の作用機序解明に関する研究	内富庸介	支持療法開発部門	3,120,000	補	文部科学省
個別化医療に対する患者の意識と心理的ストレスに関する臨床心理学的研究	田辺記子	遺伝子診療部門	780,000	補	文部科学省
中性子捕捉療法のためのリアルタイム線量測定システムの研究開発	中村哲志	放射線治療科	0	補	文部科学省
同種造血細胞移植後の移植片対宿主病の新規バイオマーカーと国際的評価法の研究	稲本賢弘	造血幹細胞移植科	0	補	文部科学省
頭頸部扁平上皮がんにおけるがん幹細胞関連分子と放射線抵抗性に関する研究	村上直也	放射線治療科	0	補	文部科学省
BCRシグナルとTNFAIP3/A20遺伝子変異の関係	野本順子	血液腫瘍科	0	補	文部科学省
ホルマリン固定検体での遺伝子融合の検出及び薬剤感受性/耐性遺伝子発現診断系の開発	角南久仁子	病理・臨床検査科	0	補	文部科学省
消化管がんにおける末梢循環腫瘍細胞を用いた病態診断法の探索	庄司広和	消化管内科	780,000	補	文部科学省
肉腫の免疫モニタリングによる新規治療標的の探索	小林英介	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	1,040,000	補	文部科学省
病理組織形態学に根ざした中枢神経系胚細胞腫の分子病態の探索	里見介史	病理・臨床検査科	2,080,000	補	文部科学省
第一度近親者における大腸癌家族歴と大腸癌・腫瘍リスクに関する前向き研究	関口正宇	検診部門	1,170,000	補	文部科学省

強度変調放射線治療を用いた全身皮膚照射の確立における技術検討	大熊加恵	放射線治療科	2,557,898	補	文部科学省
放射線治療における標的内部の放射線感受性の不均一性を検出するための方法論の確立	小林和馬	放射線治療科	1,170,000	補	文部科学省
不均質補正を用いた新たな小線源治療の臨床応用に向けた研究	稲葉浩二	放射線治療科	1,430,000	補	文部科学省
機械学習を用いた放射線治療計画におけるヒューマンエラー検出の自動化に関する研究	脇田明尚	放射線治療科	650,000	補	文部科学省
分類不能非小円形細胞肉腫の遺伝子解析と新規疾患単位の探索	吉田朗彦	病理・臨床検査科	1,560,000	補	文部科学省
鋸歯状病変由来大腸癌の発生過程におけるWNT関連遺伝子異常の解析	橋本大輝	病理・臨床検査科	2,080,000	補	文部科学省
ヒストン修飾異常を有する骨軟部腫瘍の臨床病理分子学的特徴の解明	牧瀬尚大	病理・臨床検査科	2,080,000	補	文部科学省
腫瘍融解アデノウイルスの骨軟部肉腫に対する放射線感受性増幅効果とそのメカニズム	小松原将	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	1,430,000	補	文部科学省
肺癌におけるACTN4を標的とした新規治療法の開発	白石英晶	呼吸器内科	2,600,000	補	文部科学省
行動活性化療法のメカニズムの解明と国内のがん患者に対する新たなプログラムの開発	平山貴敏	精神腫瘍科	1,300,000	補	文部科学省
チェレンコフ光を用いたリアルタイム放射線治療精度評価システムの構築	岡本裕之	放射線治療科	1,950,000	補	文部科学省
ポリマーゲル線量計を用いた線量検証システムの開発	飯島康太郎	放射線治療科	1,040,000	補	文部科学省
体細胞ゲノム解析に基づく子宮頸がんの本態解明・治療標的の同定を目指す研究	村上直也	放射線治療科	3,380,000	補	文部科学省
がん医療に携わる心理職を養成するための教育・研修システムの構築	柳井優子	精神腫瘍科	1,430,000	補	文部科学省
外科的がん切除後のせん妄発症を予測するバイオマーカーの探索	貞廣良一	精神腫瘍科	1,950,000	補	文部科学省
プレジジョンケアを目指した抗がん薬起因性末梢神経障害予防に関する予測因子の検討	華井明子	支持療法開発部門	1,300,000	補	文部科学省
骨髄バンクコーディネーター期間の短縮とドナープールの質向上による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究	福田隆浩	造血幹細胞移植科	6,961,000	補	厚生労働省
小児期に発症する遺伝性腫瘍に対するがんゲノム医療体制実装のための研究	熊本忠史	小児腫瘍科	10,049,000	補	厚生労働省
希少がんの病理診断と診療体制の実態とあり方に関する研究	西田俊朗	中央病院	10,758,000	補	厚生労働省
抗がん剤治療中止時の医療従事者のよるがん患者の意思決定支援プログラムの開発	内富庸介	支持療法開発部門	12,580,000	補	厚生労働省
がん患者に対するアピアランスケアの均てん化と指導者教育プログラムの構築に向けた研究	野澤桂子	アピアランス支援センター	3,423,000	補	厚生労働省
3学会合同「がんゲノムネット」を用いた、国民への「がんゲノム医療」に関する教育と正しい情報伝達に関する研究	田村研治	乳腺・腫瘍内科	14,239,000	補	厚生労働省

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yanai, Takako; Iwasa, Satoru; Hashimoto, Hironobu; 他	薬剤部	A double-blind randomized phase II dose-finding study of olanzapine 10 mg or 5 mg for the prophylaxis of emesis induced by highly emetogenic cisplatin-based chemotherapy	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, APR 2018,23(2),382-388	Original Article
2	Yoshida, Akihiko; Makise, Naohiro; Wakai, Susumu; 他	病理診断科	INSM1 expression and its diagnostic significance in extraskeletal myxoid chondrosarcoma	MODERN PATHOLOGY, MAY 2018,31 (5),744-752	Original Article
3	Tanaka, Yosuke; Maeshima, Akiko Miyagi; Nomoto, 他	血液腫瘍科	Expression pattern of PD-L1 and PD-L2 in classical Hodgkin lymphoma, primary mediastinal large B-cell lymphoma, and gray zone lymphoma	EUROPEAN JOURNAL OF HAEMATOLOGY, MAY 2018,100(5),511-517	Original Article
4	Nishida, Toshirou; Cho, Haruhiko; Hirota, Seiichi; 他	中央病院長	Clinicopathological Features and Prognosis of Primary GISTs with Tumor Rupture in the Real World	ANNALS OF SURGICAL ONCOLOGY, JUL 2018,25(7),1961-1969	Original Article
5	Igaki, Hiroshi; Mizumoto, Masashi; Okumura, Toshiyuki; 他	放射線治療科	A systematic review of publications on charged particle therapy for hepatocellular carcinoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, JUN 2018,23(3),423-433	Review
6	Bun, Seiko; Yunokawa, Mayu; Tamaki, Yoshiko; 他	薬剤部	Symptom management: the utility of regional cooling for hand-foot syndrome induced by pegylated liposomal doxorubicin in ovarian cancer	SUPPORTIVE CARE IN CANCER, JUL 2018,26(7),2161-2166	Original Article
7	Yamazaki, Naoya; Tsutsumida, Arata; Takahashi, Akira; 他	皮膚腫瘍科	Phase 1/2 study assessing the safety and efficacy of dabrafenib and trametinib combination therapy in Japanese patients with BRAF V600 mutation-positive advanced cutaneous melanoma	JOURNAL OF DERMATOLOGY, APR 2018,45(4),397-407	Original Article
8	Morizane, Chigusa; Ueno, Makoto; Ikeda, Masafumi; 他	肝胆膵内科	New developments in systemic therapy for advanced biliary tract cancer	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, AUG 2018,48(8),703-711	Review
9	Shimoi, Tatsunori; Yoshida, Masayuki; Kitamura, Yuka; 他	乳腺・腫瘍内科	TERT promoter hotspot mutations in breast cancer	BREAST CANCER, MAY 2018,25(3),292-296	Original Article
10	Fujiwara, Yutaka; Yamazaki, Naoya; Kiyohara, Yoshio; 他	先端医療科	Safety, tolerability, and pharmacokinetic profile of dabrafenib in Japanese patients with BRAF V600 mutation-positive solid tumors: a phase 1 study	INVESTIGATIONAL NEW DRUGS, APR 2018,36(2),259-268	Original Article

11	Tamura, Kenji; Kodaira, Makoto; Shimizu, Chikako; 他	乳腺・腫瘍内科	Phase I study of taselisib in Japanese patients with advanced solid tumors or hormone receptor-positive advanced breast cancer	CANCER SCIENCE, MAY 2018, 109(5), 1592-1601	Original Article
12	Ito, Yuta; Makita, Shinichi; Maeshima, Akiko Miyagi; 他	血液腫瘍科	Paraneoplastic Pemphigus Associated with B-cell Chronic Lymphocytic Leukemia Treated with Ibrutinib and Rituximab	INTERNAL MEDICINE, AUG 2018, 57(16), 2395-2398	Original Article
13	Takayasu, Kenichi; Ariei, Shigeaki; Sakamoto, Michiie; 他	放射線診断科	Impact of resection and ablation for single hypovascular hepatocellular carcinoma 2cm analysed with propensity score weighting	LIVER INTERNATIONAL, MAR 2018, 38(3), 484-493	Original Article
14	Makita, Shinichi; Maeshima, Akiko Miyagi; Maruyama, Dai; 他	血液腫瘍科	Forodesine in the treatment of relapsed/refractory peripheral T-cell lymphoma: an evidence-based review	ONCOTARGETS AND THERAPY, APR 2018, 11, 2287-2293	Review
15	Ebata, Takahiro; Shimoi, Tatsunori; Bun, Seiko; 他	乳腺・腫瘍内科	Efficacy and Safety of Pazopanib for Recurrent or Metastatic Solitary Fibrous Tumor	ONCOLOGY, MAY 2018, 94(6), 340-344	Original Article
16	Sunami, Kuniko; Takahashi, Hideaki; Tsuchihara, Katsuya; 他	病理診断科	Clinical practice guidance for next-generation sequencing in cancer diagnosis and treatment (Edition 1.0)	CANCER SCIENCE, SEP 2018, 109(9), 2980-2985	Original Article
17	Iizumi, Sakura; Takashima, Atsuo; Sakamaki, Kentaro; 他	消化管内科	Survival impact of post-progression chemotherapy in advanced gastric cancer: systematic review and meta-analysis	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY, JUN 2018, 81(6), 981-989	Review
18	Yamauchi, Takahiro; Ohno, Makoto; Matsushita, Yuko; 他	脳脊髄腫瘍科	Radiological characteristics based on isocitrate dehydrogenase mutations and 1p/19q codeletion in grade II and III gliomas	BRAIN TUMOR PATHOLOGY, JUL 2018, 35(3), 148-158	Original Article
19	Inoue, Yoshitaka; Fuji, Shigeo; Tanosaki, Ryuji; 他	造血幹細胞移植科	Prognostic importance of pretransplant disease status for posttransplant outcomes in patients with adult T cell leukemia/lymphoma	BONE MARROW TRANSPLANTATION, SEP 2018, 53(9), 1105-1115	Original Article
20	Sakamoto, Yasunari; Yamagishi, Seri; Tanizawa, Yoshinori; 他	肝胆膵内科	PI3K-mTOR pathway identified as a potential therapeutic target in biliary tract cancer using a newly established patient-derived cell panel assay	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, APR 2018, 48(4), 396-399	Original Article
21	Watanabe, Takashi; Tobinai, Kego; Wakabayashi, Masashi; 他	血液腫瘍科	Outcomes after R-CHOP in patients with newly diagnosed advanced follicular lymphoma: a 10-year follow-up analysis of the JCOG0203 trial	LANCET HAEMATOLOGY, NOV 2018, 5(11), E520-E531	Original Article

22	Koyanagi, Kazuo; Ozawa, Soji; Tachimori, Yuji	食道外科	Minimally invasive esophagectomy in the prone position improves postoperative outcomes: role of C-reactive protein as an indicator of surgical invasiveness	ESOPHAGUS, APR 2018,15(2),95-102	Original Article
23	Umezawa, Rei; Murakami, Naoya; Nakamura, Satoshi; 他	放射線治療科	Image-guided interstitial high-dose-rate brachytherapy for locally recurrent uterine cervical cancer: A single-institution study	BRACHYTHERAPY, MAR-APR 2018,17(2),368-376	Original Article
24	Sekine, Katsutoshi; Kanda, Shintaro; Goto, Yasushi; 他	呼吸器内科	Change in the lymphocyte-to-monocyte ratio is an early surrogate marker of the efficacy of nivolumab monotherapy in advanced non-small-cell lung cancer	LUNG CANCER, OCT 2018,124,179-188	Original Article
25	Kitano, Shigehisa; Nakayama, Takayuki; Yamashita, Makiko	先端医療科	Biomarkers for immune Checkpoint inhibitors in Melanoma	FRONTIERS IN ONCOLOGY, JUL 2018,8,270	Review
26	Tate, Keisei; Watanabe, Reiko; Yoshida, Hiroshi; 他	婦人腫瘍科	Uterine adenosarcoma in Japan: Clinicopathologic features, diagnosis and management	ASIA-PACIFIC JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, AUG 2018,14(4),318-325	Original Article
27	Yoshida, Kazushi; Fujiwara, Yutaka; Goto, Yasushi; 他	呼吸器内科	The first case of SMARCB1 (INI1) - deficient squamous cell carcinoma of the pleura: a case report	BMC CANCER, APR 2018,18,398	Original Article
28	Tate, Keisei; Yoshida, Hiroshi; Ishikawa, Mitsuya; 他	婦人腫瘍科	Prognostic factors for patients with early-stage uterine serous carcinoma without adjuvant therapy	JOURNAL OF GYNECOLOGIC ONCOLOGY, MAY 2018,29(3),e34	Original Article
29	Yonemori, Kan; Kodaira, Makoto; Satoh, Taroh; 他	乳腺・腫瘍内科	Phase 1 study of olaratumab plus doxorubicin in Japanese patients with advanced soft-tissue sarcoma	CANCER SCIENCE, DEC 2018,109(12),3962-3970	Original Article
30	Toki, Shunichi; Wakai, Susumu; Sekimizu, Masaya; 他	病理診断科	PAX7 immunohistochemical evaluation of Ewing sarcoma and other small round cell tumours	HISTOPATHOLOGY, OCT 2018,73(4),645-652	Original Article
31	Iwata, Shintaro; Araki, Akinobu; Funatsu, Hiroyuki; 他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Optimal surgical margin for infiltrative soft tissue sarcomas: Assessing the efficacy of excising beyond the infiltration	JOURNAL OF SURGICAL ONCOLOGY, SEP 2018,118(3),525-531	Original Article
32	Itahashi, Kota; Kondo, Shunsuke; Kubo, Takashi; 他	先端医療科	Evaluating Clinical Genome Sequence Analysis by Watson for Genomics	FRONTIERS IN MEDICINE, NOV 2018, 5,305	Original Article

33	Namikawa, Kenjiro; Kiyohara, Yoshio; Takenouchi, Tatsuya; 他	皮膚腫瘍科	Efficacy and safety of nivolumab in combination with ipilimumab in Japanese patients with advanced melanoma: An open-label, single-arm, multicentre phase II study	EUROPEAN JOURNAL OF CANCER,DEC 2018,105,114-126	Original Article
34	Shiba, Satoshi; Imaoka, Hiroshi; Shioji, Kazuhiko; 他	肝胆膵内科	Clinical characteristics of Japanese patients with epithelioid hemangioendothelioma: a multicenter retrospective study	BMC CANCER,OCT 2018,18,993	Original Article
35	Suzuki, Shigeki; Sakurai, Hiroyuki; Yotsukura, Masaya; 他	呼吸器外科	Clinical Features of Ground Glass Opacity-Dominant Lung Cancer Exceeding 3.0 cm in the Whole Tumor Size	ANNALS OF THORACIC SURGERY,MAY 2018,105(5),1499-1506	Original Article
36	Kimbara, Shiro; Fujiiwara, Yutaka; Iwama, Shintaro; 他	呼吸器内科	Association of antithyroglobulin antibodies with the development of thyroid dysfunction induced by nivolumab	CANCER SCIENCE,NOV 2018,109(11),3583-3590	Original Article
37	Maruyama, Dai; Tobinai, Kensei; Chou, Takaaki; 他	血液腫瘍科	Weekly carfilzomib and dexamethasone in Japanese patients with relapsed or refractory multiple myeloma: A phase 1 and PK/PD trial	CANCER SCIENCE,OCT 2018,109(10),3245-3252	Original Article
38	Ochi, Kiyosumi; Fuji, Shigeo; Takano, Kuniko; 他	造血幹細胞移植科	The putative anti-leukemic effects of anti-thymocyte globulins in patients with CD7-positive acute myeloid leukemia	BONE MARROW TRANSPLANTATION,AUG 2018,53(8),1019-1029	Original Article
39	Oashi, Kohei; Namikawa, Kenjiro; Tsutsumida, Arata; 他	皮膚腫瘍科	Surgery with curative intent is associated with prolonged survival in patients with cutaneous angiosarcoma of the scalp and face -a retrospective study of 38 untreated cases in the Japanese population	EJSO,JUN 2018,44(6),823-829	Original Article
40	Hashimoto, Hironobu; Abe, Masakazu; Yanai, Takako; 他	薬剤部	Study protocol for J-SUPPORT 1604 (J-FORCE): a randomized, double blind, placebo-controlled Phase III study evaluating olanzapine (5 mg) plus standard triple antiemetic therapy for prevention of chemotherapy induced nausea and vomiting in patients receiving cisplatin-based highly emetogenic chemotherapy	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,OCT 2018,48(10),950-952	Original Article
41	Nishimura, Yuuki; Yoshida, Akihiko; Yonemori, Kan; 他	病理診断科	SMARCB-1 deficient squamous cell carcinoma of a mediastinal cyst	PATHOLOGY-INTERNATIONAL,OCT 2018,68(10),563-566	Original Article
42	Sekine, Katsutoshi; Hamaguchi, Tetsuya; Shoji, Hirokazu; 他	消化管内科	Retrospective Analyses of Systemic Chemotherapy and Cytoreductive Surgery for Patients with Ovarian Metastases from Colorectal Cancer: A Single-Center Experience	ONCOLOGY,SEP 2018,95(4),220-228	Original Article
43	Miura, Akihiro; Mori, Taisuke; Yoshida, Akihiko; 他	病理科	Primary adenocarcinoma of the trachea revealing a mucinous bronchial gland cell origin	PATHOLOGY RESEARCH AND PRACTICE,MAY 2018,214(5),796-799	Original Article

44	Yamazaki, Naoya; Oomuku, Yumi; Mishiro, Izumi; 他	皮膚腫瘍科	Pre-emptive skin treatments to prevent skin toxicity caused by anti-EGFR antibody: the real-world evidence in Japan	FUTURE ONCOLOGY, DEC 2018,14(30),3163-3174	Original Article
45	Shimoi, Tatsunori; Hamada, Akinobu; Yamagishi, Marifu; 他	乳腺・腫瘍内科	PIK3CA mutation profiling in patients with breast cancer, using a highly sensitive detection system	CANCER SCIENCE, AUG 2018,109(8),2558-2566	Original Article
46	Toki, Shunichi; Motoi, Toru; Miyake, Mototaka; 他	病理科	Minute mesenchymal chondrosarcoma within osteochondroma: an unexpected diagnosis confirmed by HEY1-NCOA2 fusion	HUMAN PATHOLOGY, NOV 2018,81,255-260	Original Article
47	Shoji, Hirokazu; Miura, Nami; Ueno, Hideki; 他	消化管内科	Measurement of copy number of ACTN4 to optimize the therapeutic strategy for locally advanced pancreatic cancer	PANCREATOLOGY, SEP 2018,18(6),624-629	Review
48	Umezawa, Rei; Inaba, Koji; Nakamura, Satoshi; 他	放射線治療科	Long-term Results of External Beam Radiotherapy for Prostate Cancer with Prostate-specific Antigen of More Than 50 ng/ml and Without Evidence of Lymph Node or Distant Metastasis	ANTICANCER RESEARCH, APR 2018,38(4),2303-2309	Original Article
49	Koyanagi, Kazuo; Kato, Fumihiko; Nakanishi, Keita; 他	食道外科	Lateral thermal spread and recurrent laryngeal nerve paralysis after minimally invasive esophagectomy in bipolar vessel sealing and ultrasonic energy devices: a comparative study	ESOPHAGUS, OCT 2018,15(4),249-255	Original Article
50	Tsukamoto, Shunsuke; Miyake, Mototaka; Shida, Dai; 他	大腸外科 & 放射線診断科	Intersphincteric Resection Has Similar Long-term Oncologic Outcomes Compared With Abdominoperineal Resection for Low Rectal Cancer Without Preoperative Therapy: Results of Propensity Score Analyses	DISEASES OF THE COLON & RECTUM, SEP 2018,61(9),1035-1042	Original Article
51	Kuno, Ikumi; Yoshida, Hiroshi; Shimizu, Hanako; 他	婦人腫瘍科	Incidental lymphangioleiomyomatosis in the lymph nodes of gynecologic surgical specimens	EUROPEAN JOURNAL OF OBSTETRICS & GYNECOLOGY AND REPRODUCTIVE BIOLOGY, DEC 2018,231,93-97	Original Article
52	Kashihara, Tairo; Nakamura, Satoshi; Wakita, Akihisa; 他	放射線品質管理室	Importance of the site of positive surgical margin in salvage external beam radiation therapy for biochemical recurrence of prostate cancer after radical prostatectomy	CANCER MEDICINE, MAY 2018,7(5),1723-1730	Original Article
53	Kobayashi, Kenya; Matsumoto, Fumihiko; Miyakita, Yasuji; 他	頭頸部外科	Impact of Surgical Margin in Skull Base Surgery for Head and Neck Sarcomas	JOURNAL OF NEUROLOGICAL SURGERY PART B-SKULL BASE, OCT 2018,79(5),437-444	Original Article
54	Okamoto, Hiroyuki; Minemura, Toshiyuki; Nakamura, Mitsuhiro; 他	放射線品質管理室	Establishment of postal audit system in intensity-modulated radiotherapy by radiophotoluminescent glass dosimeters and a radiochromic film	PHYSICA MEDICA-EUROPEAN JOURNAL OF MEDICAL PHYSICS, APR 2018,48,119-126	Original Article

55	Iizumi, Sakura; Shimomura, Akihiko; Shimoi, Tatsunori; 他	乳腺・腫瘍内科	Efficacy of capecitabine in patients with locally advanced or metastatic breast cancer with or without prior treatment with fluoropyrimidine: a retrospective study	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY,AUG 2018,82(2),275-283	Original Article
56	Iwasa, Satoru; Yamamoto, Noboru; Shitara, Kohei; 他	先端医療科	Dose-finding study of the checkpoint kinase 1 inhibitor, prexasertib, in Japanese patients with advanced solid tumors	CANCER SCIENCE,OCT 2018,109(10),3216-3223	Original Article
57	Murakami, Naoya; Ueno, Takao; Yatsuoka, Wakako; 他	放射線治療科	Dose coverage comparison between "interstitial catheter-only" and "hybrid intracavitary-interstitial brachytherapy" for early stage squamous cell carcinoma of the buccal mucosa	JOURNAL OF CONTEMPORARY BRACHYTHERAPY,OCT 2018,10(5),486-491	Original Article
58	Saito, Yoshimasa; Kumamoto, Tadashi; Shiraiwa, Miki; 他	薬剤部	Cyclophosphamide-induced hemorrhagic cystitis in young patients with solid tumors: A single institution study	ASIA-PACIFIC JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,OCT 2018,14(5),e460-e464	Original Article
59	Nakashima, T.; Koido, K.; Baba, H.; 他	薬剤部	Contribution of pharmacists with expertise in infectious diseases to appropriate individualized vancomycin dosing	PHARMAZIE,JUL 2018,73(7),422-424	Original Article
60	Yamamoto, Noboru; Kenmotsu, Hirotsugu; Goto, Koichi; 他	呼吸器内科	An open-label feasibility study of nintedanib combined with docetaxel in Japanese patients with locally advanced or metastatic lung adenocarcinoma after failure of first-line chemotherapy	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY,OCT 2018,82(4),685-694	Original Article
61	Yamada, Kazunosuke; Shida, Dai; Kato, Tomoyasu; 他	大腸外科	Adenocarcinoma arising in sigmoid colon neovagina 53 years after construction	WORLD JOURNAL OF SURGICAL ONCOLOGY,APR 2018,16,88	Original Article
62	Ishikawa, Mitsuya; Nakamura, Kenichi; Shibata, Taro; 他	婦人腫瘍科	A randomized phase II/III trial of conventional paclitaxel and carboplatin with or without bevacizumab vs dose-dense paclitaxel and carboplatin with or without bevacizumab, in stage IVB, recurrent or persistent cervical carcinoma: Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG1311)	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,DEC 2018,48(12),1096-1100	Original Article
63	Maruyama, Dai; Tsukasaki, Kunihiro; Uchida, Toshiki; 他	血液腫瘍科	Multicenter phase 1/2 study of forodesine in patients with relapsed peripheral T cell lymphoma	ANNALS OF HEMATOLOGY,JAN 2019,98(1),131-142	Original Article
64	Yoshikawa, Takaki; Terashima, Masanori; Mizusawa, Junki; 他	胃外科	Four courses versus eight courses of adjuvant S-1 for patients with stage II gastric cancer (JCOG1104 [OPAS-1]): an open-label, phase 3, non-inferiority, randomised trial	LANCET GASTROENTEROLOGY & HEPATOLOGY,MAR 2019,4(3),208-216	Original Article
65	Narita, Yoshitaka; Arakawa, Yoshiki; Yamasaki, Fumiyouki; 他	脳脊髄腫瘍科	A randomized, double-blind, phase III trial of personalized peptide vaccination for recurrent glioblastoma	NEURO-ONCOLOGY,MAR 2019,21(3),348-359	Original Article

66	Shiino, Sho; Yoshida, Masayuki; Limbo, Kenjiro; 他	乳腺外科	Two rare cases of endosalpingiosis in the axillary sentinel lymph nodes: evaluation of immunohistochemical staining and one-step nucleic acid amplification (OSNA) assay in patients with breast cancer	VIRCHOWS ARCHIV,MAY 2019,474(5),633-638	Original Article
67	Yoneoka, Yutaka; Yoshida, Hiroshi; Ishikawa, Mitsuya; 他	婦人腫瘍科	Prognostic factors of synchronous endometrial and ovarian endometrioid carcinoma	JOURNAL OF GYNECOLOGIC ONCOLOGY,JAN 2019,30(1),e7	Original Article
68	Inamoto, Yoshihiro; Petricek, Igor; Burns, Linda; 他	造血幹細胞移植科	Non-GVHD ocular complications after hematopoietic cell transplantation: expert review from the Late Effects and Quality of Life Working Committee of the CIBMTR and Transplant Complications Working Party of the EBMT	BONE MARROW TRANSPLANTATION,MAY 2019,54(5),648-661	Review
69	Nakayama, Takayuki; Kitano, Shigehisa	先端医療科	Immunotherapy for genitourinary tumors	INTERNATIONAL JOURNAL OF UROLOGY,MAR 2019,26(3),326-333	Review
70	Noguchi, Emi; Tamura, Kenji; Hattori, Masaya; 他	乳腺・腫瘍内科	Trastuzumab emtansine plus pertuzumab in Japanese patients with HER2-positive metastatic breast cancer: a phase Ib study	BREAST CANCER,JAN 2019,26(1),39-46	Original Article
71	Ueno, Takao; Zenda, Sadamoto; Konishi, Tetsuhito; 他	総合内科・歯科・がん救急科	The post hoc analysis comparing the severity grades of chemoradiotherapy-induced oral mucositis scored between the central and local assessors in a multicenter, randomized controlled trial of rebamipide for head and neck cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,MAR 2019,24(3),241-247	Original Article
72	Yura, Masahiro; Yoshikawa, Takaki; Otsuki, Sho; 他	胃外科	The Therapeutic Survival Benefit of Splenic Hilar Nodal Dissection for Advanced Proximal Gastric Cancer Invading the Greater Curvature	ANNALS OF SURGICAL ONCOLOGY,MAR 2019,26(3),829-835	Original Article
73	Namikawa, Kenjiro; Yamazaki, Naoya	皮膚腫瘍科	Targeted Therapy and Immunotherapy for Melanoma in Japan	CURRENT TREATMENT OPTIONS IN ONCOLOGY,JAN 2019,20(1),7	Review
74	Shiino, Sho; Matsuzaki, Juntaro; Shimomura, Akihiko; 他	乳腺外科	Serum miRNA-based Prediction of Axillary Lymph Node Metastasis in Breast Cancer	CLINICAL CANCER RESEARCH,MAR 2019,25(6),1817-1827	Original Article
75	Miyamoto, Shimpei; Arikawa, Masaki; Kagaya, Yu; 他	形成外科	Septocutaneous thoracodorsal artery perforator flaps: a retrospective cohort study	JOURNAL OF PLASTIC RECONSTRUCTIVE AND AESTHETIC SURGERY,JAN 2019,72(1),78-84	Original Article
76	Ohe, Yuichiro; Imamura, Fumio; Nogami, Naoyuki; 他	呼吸器内科	Osimertinib versus standard-of-care EGFR-TKI as first-line treatment for EGFRm advanced NSCLC: FLAURA Japanese subset	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,JAN 2019,49(1),29-36	Original Article

77	Okamoto, Hiroyuki; Nishioka, Shie; Iijima, Kotaro; 他	放射線治療科	Monte Carlo modeling of a Co-60 MRI-guided radiotherapy system on Geant4 and experimental verification of dose calculation under a magnetic field of 0.35 T	JOURNAL OF RADIATION RESEARCH, JAN 2019,60(1),116-123	Original Article
78	Tanabe, Taro; Shida, Dai; Tsukamoto, Shunsuke; 他	大腸外科	Metachronous metastasis to inguinal lymph nodes from sigmoid colon adenocarcinoma with abdominal wall metastasis: a case report	BMC CANCER, FEB 2019,19,180	Original Article
79	Watanabe, Sho; Honma, Yoshitaka; Murakami, Naoya; 他	頭頸部外科	Induction chemotherapy with docetaxel, cisplatin and fluorouracil followed by concurrent chemoradiotherapy for unresectable sinonasal undifferentiated carcinoma: Two cases of report	WORLD JOURNAL OF CLINICAL CASES, MAR 2019,7(6),765-772	Original Article
80	Murakami, Naoya; Shima, Satoshi; Kashihara, Tairo; 他	放射線治療科	Hyaluronic gel injection into the vesicovaginal septum for high-dose-rate brachytherapy of uterine cervical cancer: an effective approach for bladder dose reduction	JOURNAL OF CONTEMPORARY BRACHYTHERAPY, FEB 2019,11(1),1-7	Original Article
81	Itahashi, Kota; Shimizu, Toshio; Koyama, Takafumi; 他	先端医療科	Global trends in the distribution of cancer types among patients in oncology phase I trials, 1991-2015	INVESTIGATIONAL NEW DRUGS, FEB 2019,37(1),166-174	Review
82	Nakamura, Yuya; Shida, Dai; Shibayama, Takahiro; 他	大腸外科	Giant multilocular prostatic cystadenoma	WORLD JOURNAL OF SURGICAL ONCOLOGY, FEB 2019,17,42	Original Article
83	Yoshida, Akihiko; Satomi, Kaishi; Ohno, Makoto; 他	病理診断科	Frequent false-negative immunohistochemical staining with IDH1 (R132H)-specific H09 antibody on frozen section control slides: a potential pitfall in glioma diagnosis	HISTOPATHOLOGY, JAN 2019,74(2),350-354	Original Article
84	Tashiro, Kensuke; Arikawa, Masaki; Fukunaga, Yutaka; 他	形成外科	Free latissimus dorsi musculocutaneous flap for external hemipelvectomy reconstruction	MICROSURGERY, FEB 2019,39(2),138-143	Original Article
85	Shimomura, Akihiko; Yamamoto, Noboru; Kondol, Shunsuke; 他	先端医療科	First-in-Human Phase I Study of an Oral HSP90 Inhibitor, TAS-116, in Patients with Advanced Solid Tumors	MOLECULAR CANCER THERAPEUTICS, MAR 2019,18(3),531-540	Original Article
86	Takeuchi, Yoshito; Arai, Yasuaki; Sone, Miyuki; 他	放射線診断科	Evaluation of stent placement for vena cava syndrome: phase II trial and phase III randomized controlled trial	SUPPORTIVE CARE IN CANCER, MAR 2019,27(3),1081-1088	Original Article
87	Saito, Yoshimasa; Kumamoto, Tadashi; Arima, Takamichi; 他	薬剤部	Evaluation of aprepitant and fosaprepitant in pediatric patients	PEDIATRICS INTERNATIONAL, MAR 2019,61(3),235-239	Original Article

88	Ito, Yuta; Makita, Shinichi; Tobinai, Kensei	血液腫瘍科	Development of new agents for peripheral T-cell lymphoma	EXPERT OPINION ON BIOLOGICAL THERAPY ,19(3),197-209	Review
89	Nakamura, Satoshi; Igaki, Hiroshi; Okamoto, Hiroyuki; 他	放射線品質管理室	Dependence of neutrons generated by Li-7(p,n) reaction on Li thickness under free-air condition in accelerator-based boron neutron capture therapy system employing solid-state Li target	PHYSICA MEDICA-EUROPEAN JOURNAL OF MEDICAL PHYSICS,FEB 2019,58,121-130	Original Article
90	Sekiguchi, Masau; Igarashi, Ataru; Sakamoto, Taku; 他	検診部門	Cost-effectiveness analysis of postpolypectomy colonoscopy surveillance using Japanese data	DIGESTIVE ENDOSCOPY,JAN 2019,31(1),40-50	Original Article
91	Sekiguchi, Masau; Kakugawa, Yasuo; Matsumoto, Minori; 他	検診部門	A scoring model for predicting advanced colorectal neoplasia in a screened population of asymptomatic Japanese individuals	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY, OCT 2018,53(10),1109-1119	Original Article
92	Yoshida, Hiroshi; Ikeda, Shunichi; Tsukada, Takafumi; 他	病理診断科	Methods for Measuring and Staging a Uterine Cervical Adenocarcinoma Showing Intracystic Papillary Growth: A Case Report	INTERNATIONAL JOURNAL OF GYNECOLOGICAL PATHOLOGY,JUL 2018,37(4),364-367	Original Article
93	Honma, Yoshitaka; Terauchi, Takashi; Tateishi, Ukihide; 他	頭頸部内科	Imaging peritoneal metastasis of gastric cancer with F-18-fluorothymidine positron emission tomography/computed tomography: a proof-of-concept study	BRITISH JOURNAL OF RADIOLOGY ,2018,91(1089),20180259	Original Article
94	Yamagata, Yukinori; Saito, Kazuyuki; Ban, Shinichi; 他	胃外科	The origin of p40-negative and CDX2-positive primary squamous cell carcinoma of the stomach: case report	WORLD JOURNAL OF SURGICAL ONCOLOGY,MAR 2019,17,53	Original Article
95	Kawai, Akira; Goto, Toshio; Shibata, Tatsuhiko; 他	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Current state of therapeutic development for rare cancers in Japan, and proposals for improvement	CANCER SCIENCE,MAY 2018,109(5),1731-1737	Original Article
96	Yonemori, Kan; Shimomura, Akihiko; Yasojima, Hiroyuki; 他	乳腺・腫瘍内科	A phase I/II trial of olaparib tablet in combination with eribulin in Japanese patients with advanced or metastatic triple-negative breast cancer previously treated with anthracyclines and taxanes	EUROPEAN JOURNAL OF CANCER,MAR 2019,109,84-91	Original Article
97	Suzuki, Haruhisa; Takizawa, Kohei; Hirasawa, Toshiaki; 他	内視鏡科	Short-term outcomes of multicenter prospective cohort study of gastric endoscopic resection: 'Real-world evidence' in Japan	DIGESTIVE ENDOSCOPY,JAN 2019,31(1),30-39	Original Article
98	Kato, Ken; Sato, Taroh; Muro, Kei; 他	消化管内科	A subanalysis of Japanese patients in a randomized, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial of nivolumab for patients with advanced gastric or gastro-esophageal junction cancer refractory to, or intolerant of, at least two previous chemotherapy regimens (ONO-4538-12, ATTRACTION-2)	GASTRIC CANCER,MAR 2019,22(2),344-354	Original Article

99	Yatabe, Yasushi; Dacic, Sanja; Borzuk, Alain C.; 他	病理診断科	Best Practices Recommendations for Diagnostic Immunohistochemistry in Lung Cancer	JOURNAL OF THORACIC ONCOLOGY, MAR 2019, 14(3), 377-407	Original Article
100	Abe, Seiichiro; Saito, Yutaka; Oono, Yasuhiro; 他	内視鏡科	Pilot study on probe-based confocal laser endomicroscopy for colorectal neoplasms: an initial experience in Japan	INTERNATIONAL JOURNAL OF COLORECTAL DISEASE, AUG 2018, 33(8), 1071-1078	Original Article

計100件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
手順書の主な内容 ＜研究倫理審査委員会標準業務手順書＞ ・委員会の運用規定 ・審査種別ごとの手順 など ＜研究審査委員会共通予備調査会標準業務手順書＞ ・恒常的グループまたは中央病院の臨床研究支援部門の支援を受けて研究計画が立案されかつ研究責任者が所属する部門内で研究の適切性について確認がなされていない研究であり、研究計画書の作成最終責任がセンター内の研究者である場合、介入研究の申請時に、審査開始前に行う予備調査に関する手順 など	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 臨床研究を含む当センターの研究に携わる者のCOI管理手順は、COI管理規程及びCOI委員会運営規程において定められている。 1. 管理対象 管理対象については、COI管理規程第3条に定められており、臨床研究を行おうとする研究者が該当する。 2. 申告 研究者は、COI管理規程第4条により、年一回の定期申告及びCOI状況の変動の都度申告を行う。	

3. COI委員会

COI委員会は、COI管理規程第6条により、研究者より申告のあったCOIにつき、審査を行い、理事長に対し、意見等を述べるとともに、臨床研究倫理審査委員会等各種倫理審査委員会委員長からの研究者のCOIの申告内容、審査結果等の開示請求があれば、これに応じることとされ、さらにCOI委員会運営規程第5条に基づき、COI委員会委員長は、臨床研究倫理審査委員会委員長より依頼された審査の結果については、依頼元である臨床研究倫理審査委員会委員長に報告することにより具体的に定められている。

4. 指導・管理

理事長は、COI委員会の意見に基づき、COIに関し、改善が必要と判断する場合、当該研究者に対し、当該研究への参加の取りやめまでも含む改善に向けた指導・管理を行う。

5. 臨床研究法対応

COI管理規定第5条により、臨床研究法施行規則第21条第2項（いわゆる「事実確認」）に関する事務権限を理事長から生命倫理部COI管理室に委譲している。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回 H30年度 審査件数は249件
---------------------------------------	---------------------------

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年4回
・研修の主な内容 研究倫理と被験者保護、各種倫理指針、利益相反、研究許可申請等の手続きに関する講義	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

がん専門修練医・・・原則として当センターのレジデント修了者、またはサブスペシャリティ領域専門医取得相当の医師を対象とし、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的としている。研修年限は2年で、指導医のもとで高度の知識・技術の習得・開発、さらには臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究も実践する。各領域の将来のリーダーを目指す人材の育成を目的とした研修制度である。

レジデント（3年コース・2年コース）・・・原則として医師免許取得後3年目以降、基本領域専門医取得相当の者を対象に、複数診療科のローテーション研修、あるいは特定診療科の研修を通して、がんに関する幅広い知識と技術の習得を目指す。我が国を代表する指導医のもとでがん診療、がん研究に従事する。日本のがん医療を支える、すぐれたがん専門医を育成することを目的とした、国立がん研究センター教育・研修制度の中核となる研修制度である。2年コースについては研修開始時期が選択可能です。

短期レジデント・・・がん医療の均てん化に貢献することを目的として、柔軟な研修開始時期、研修期間により研修者のニーズに幅広く対応することを目的とした研修制度である。研修時期は4月、7月、10月、1月から選択可能であり、研修期間は診療科により異なるが、最短で3ヶ月、最長で2年までである。

専攻医コース（基幹施設型・連携施設型）・・・新専門医制度のもと、当センターでの研修を希望される者を対象としたコースである。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	138.7人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
成田 善孝	脳神経外科	科長	27 年	
鈴木 茂伸	眼科	科長	25 年	
吉本 世一	耳鼻いんこう科	科長	27 年	
赤澤 聡	形成外科	科長	17 年	
首藤 昭彦	乳腺外科	科長	34 年	H31.4.1～
田村 研治	乳腺・腫瘍内科	科長	26 年	
渡邊 俊一	呼吸器外科	科長	28 年	
大江 裕一郎	呼吸器内科	科長	34 年	
斎藤 豊	内視鏡科	科長	26 年	
大幸 宏幸	食道外科	科長	25 年	
吉川 貴己	胃外科	科長	31 年	
金光 幸秀	大腸外科	科長	28 年	
朴 成和	消化管内科	科長	31 年	
島田 和明	肝胆膵外科	科長	36 年	
奥坂 拓志	肝胆膵内科	科長	28 年	

藤元 博行	泌尿器科	科長	30 年
加藤 友康	婦人科	医長	35 年
川井 章	整形外科	科長	32 年
山崎 直也	皮膚科	科長	33 年
伊豆津 宏二	血液腫瘍科	科長	25 年
福田 隆浩	造血幹細胞移植科	科長	29 年
小川 千登世	小児科	科長	28 年
島田 和明	小児腫瘍外科	科長	31 年
佐藤 哲文	麻酔科	科長	29 年
里見 絵理子	緩和医療科	科長	24 年
清水 研	精神科	科長	20 年
楠本 昌彦	放射線診断科	科長	28 年
伊丹 純	放射線治療科	科長	37 年
関根 茂樹	病理科	医長	22 年
山本 昇	先端医療科	科長	27 年
福田 治彦	データ管理部	部長	31 年
上野 尚雄	歯科	医長	21 年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・ 薬剤師レジデント研修

研修内容：がん薬物療法に関連する病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師を養成することを目的としている。研修期間は3年で、指導薬剤師のもとに薬剤業務や病棟業務に従事する。

研修期間：3年間

参加人数：16名（平成31年3月31日現在の在籍者数）

・ がん専門薬剤師研修

研修内容：国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、またはこれに相当する学識を有し、3年以上の臨床経験を有する者を対象とし、がん患者の薬学的管理介入や臨床薬学研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門薬剤師を育成することを目的としている。研修年限は2年で、指導薬剤師のもとで高度な知識・技術の習得・開発に努め、患者の臨床薬剤業務に従事する。

研修期間：2年間

参加人数：1名（平成31年3月31日現在の在籍者数）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・ 研修の主な内容

・ 研修の期間・実施回数

・ 研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・任意研修制度・受託実習制度と言う研修制度があり、他の医療機関に所属する医療関係者の受け入れを行っている。対象者は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士等であり、医学生や看護学生等の受け入れも行っている。

・研修の期間・実施回数

・研修期間・・・1日から1年間と幅広く設定し、1年以上の延長も可能である。

・研修の参加人数

・平成30年度で新たに受け入れた医療従事者は77名である。その他、学生等の受け入れを442名行った。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

XIV-1. 研究活動・研修参加状況（平成30年度）

1. 看護部の教育実施状況

研修名	目標	対象者	人員	実施日
がん看護概論	1. がんの特徴と罹患に伴う患者・家族の身体、心理、社会的役割の変化を知る 2. がん患者・家族の全人的苦痛を捉えることの意味を知る 3. がん患者と家族に必要な看護実践に意欲を示す	レベル I (新人)	102	4/4
社会人基礎力	1. 社会人基礎力の各要素の意味を見いだせる 2. 自身の弱み・強みを知る	レベル I (新人)	102	4/4
基礎看護技術研修	1. 各看護技術の手順を理解できる 2. 各看護技術を手順のとおり実施できる 3. 各看護技術を安全に実施するための根拠を理解できる 4. 各看護技術を集合教育と職場内教育を連動させ、段階的に習得する方法を学ぶ	レベル I (新人)	102	4/10 4/17 4/24 5/8 6/5 7/3
1ヶ月の振り返り	1. 1ヶ月を振り返り、現在困っていること・悩みを表現できる 2. グループメンバーの意見に共感することができる 3. 現在の自分の課題について指導者と話し合うことができる		102	5/8
コミュニケーション研修	1. 自分と患者・家族、またはスタッフとのコミュニケーションを振り返る 2. 演習とグループワークを通し、自分のコミュニケーションの傾向を知る 3. 円滑なコミュニケーションのための自己課題を明確にし、解決策を見出せる		102	6/5
多重課題	1. 安全・安楽な基礎看護技術の習得ができる 2. 演習を通し、優先度の判断・看護実践・行動を振り返ることが出来る 2. 安全な看護実践について自己課題を明確にし、解決策を見出せる		98	7/3
フィジカルアセスメント	1. フィジカルアセスメントの基礎知識・技術を理解できる 2. 助言を受け、起きている現象についてアセスメントするための情報収集ができる 3. フィジカルアセスメントの基礎知識をもとに、起きている現象について助言をうけながらアセスメントできる 4. 指導のもと、起きている現象についてSBARで報告できる		94	10/2
がんの基礎知識	1. がん罹患や死亡、生存率などの統計データの意味と見方が理解できる 2. がんの予防および早期発見の重要性を述べることができる 3. がんの病理学的特徴、発がんのメカニズム、再発、転移などの特徴について知る 4. 国のがん対策について知る		91	12/4
看護過程の展開	1. 看護過程の5つの段階についてそれぞれ説明できる 2. 最善のケアを提供するために看護過程の展開が重要であることを理解できる 3. 看護実践において看護過程を展開する		91	12/4
がん治療と看護①	1. 手術療法・化学療法・放射線療法の基礎知識を習得する 2. 手術療法・化学療法・放射線療法における看護ケアについて理解できる		92	1/29
1年の振り返り	1. この1年で学んだ内容を総括し、シミュレーションで実践することができる 2. 1年を振り返り、自分たちの成長や看護への思いを語る 3. 互いの評価・課題の発表を聞き、共有できる 4. 次年度に向けての自己の課題を明確にできる		88	3/12
がん治療と看護②	1. IVRの特徴とがん治療におけるIVRの意義を知る 2. 1) 内視鏡治療の基礎知識を習得する 2) 内視鏡治療における合併症と看護ケアについて理解できる 3. 臨床試験の特徴と流れを知り、臨床試験における看護師の役割の重要性を理解できる 4. 緩和ケアについて基本的な知識と考え方を理解できる		レベル I (2年目)	52

ケーススタディー発表会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「がんの基礎知識」「がん治療と看護」で学んだ知識を活用し、患者の病態生理や治療についてまとめることができる 2. 看護過程を展開し、実践した看護について考察することができる 3. 互いのケーススタディを共有し、学びを深めることができる 4. ケーススタディによる学びから自己の課題を明確にできる 	レベルⅠ (2年目)	50	11/27
リーダーシップ メンバーシップ	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップとメンバーシップの概念を理解できる 2. チームにおけるメンバーシップの重要性を理解し、部署内で実践できる 3. 自分がリーダーとなるうえでの課題を見出すことができる 4. 役割が遂行できるよう他者（リーダーまたはメンバー）へ協力を依頼できる 	レベルⅡ (卒後3年目相当)	71	5/15
サポーターケア	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんと診断された時からの緩和ケアとトータルペインについて理解し、看護師の役割を説明できる 2. がんサバイバーシップについて理解できる 3. がん患者に生じることが多い症状について、メカニズムや影響要因を理解し、対処方法を考えることが出来る 4. がん患者のセルフケア支援の重要性と方法を述べる事が出来る 5. サイコオンコロジーの概要を知り、実践場面での活用を考えることができる 		66	10/23
継続看護 (事例発表会)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 継続看護の必要性を理解し、実践できる 2. 患者の意思決定に関わる看護師の役割を理解し、実践できる 3. チームアプローチの重要性を理解し、多職種につなぐことができる 他 	レベルⅡ (4年目)	35	6/12
臨床試験看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床試験における当院の使命と実施状況を理解できる。 2. 臨床試験の実施に必要な知識を理解できる。 3. 臨床試験における看護師の役割を述べる事ができる。 		33	11/20
成人教育	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職者の特徴を成人学習者の特徴と関連づけて説明できる 2. 専門職業人としての後輩育成の必要性を述べる 3. 教育的関わりに対する自己の課題を明らかにする 4. 新人看護師の特徴をふまえた効果的な指導計画を立てる 他 	レベルⅢ以上	28	1/22
ベストプラクティス	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題解決技法を学び、習得することができる 2. 自部署の問題や課題に気づき、解決方法を見出すことができる 3. 自部署の問題に対し、必要な支援を受けながら見出した解決方法を実践することができる 4. 自部署の問題に対する実践の成果や課題を客観的データとして示すことができる 5. 集団の特性を踏まえた動機付けを行い、リーダーシップを発揮する 	レベルⅢ以上 (概ね卒後5年目以上)	41	6/12 2/26
看護管理研修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護部の理念を理解し、所属部署の「問題」を見つけることができる 2. 看護管理者に必要な能力・態度を理解する 3. PDP・PDCAを用いて問題解決を行う 4. 問題解決を続けることで、部署のレジリエンスを高める 5. 問題解決のための適切な支援ができる 6. 「問題解決」ができる組織を作る 	副看護師長・幹部看護師任用候補者選考試験合格者で当該看護師長の推薦者	12 内訳 副師長8 スタッフ4	6/12
人材育成術	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織における人財の重要性を理解し、教育が果たす役割を考えることができる 2. モチベーションを高める育成術について理解し、活用できる 3. 看護単位内において指導者として目指す自分を見出すことができる 4. 指導者として組織に貢献している意識を高め、役割の遂行に意欲を示す 	レベルⅡ以上 (次年度新人指導に関わるスタッフ)	39	12/7
看護を語る会	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践を通して看護の意味や価値について述べる事ができる 2. 自分の考える看護を言葉で表現できる 3. 実践例を通して互いに語り合うことで、患者や家族、自身の思いに気が付き、それを表出することができる 	レベルⅠ・Ⅱ	①29 ②34	①6/6 ②2/8
急変時対応とフィジカル アセスメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急変時に必要な看護技術を習得できる 2. 急変患者の対応ができる 3. 多重課題・時間切迫下での自己の特性と傾向を把握できる 4. 急変時対応の指導ができる 	レベルⅢ以上	20	7/24

共育リフレクション	1. 後輩育成の必要性を理解する 2. 後輩育成に必要なコミュニケーションを理解する 3. 日々の後輩指導を振り返り、自己の成長を見出すことができる 4. 後輩指導における自己の役割を明確にし、今後の関わり方について述べる	レベルⅡ以上	31	6/26
がん化学療法看護	1. がん化学療法看護の特徴と看護師の役割について理解できる 2. がん化学療法の目的、治療計画、レジメンを理解することの意義を述べるができる 3. がん化学療法薬を安全に取り扱う必要性と曝露予防方法に	レベルⅢ以上 (卒後5年目相当)	9	10/18 10/19
放射線療法看護	1) 放射線の基礎知識を理解できる 2) がん治療における放射線療法の意義と方法について理解できる 3) がん放射線療法に伴う急性期および晩期の有害事象とその対策について理解できる 他		10	7/18 7/19
緩和ケア	1. 緩和ケアに関する基礎知識および考え方について理解できる 2. がん性疼痛マネジメントに必要な基礎知識を習得する 3. がん性疼痛マネジメントに必要な薬物療法と副作用対策について理解できる 他		19	9/10 9/11
皮膚排泄ケア (排泄ケア編)	1. 排泄ケアに必要な皮膚の解剖整理について理解できる 2. ストーマリハビリテーションの基礎知識について理解できる 3. ストーマが造設される疾患とストーマの種類について理解できる 他		17	6/14 6/21 7/7
退院支援・在宅療養支援	1. がん患者の退院支援・在宅療養支援の特徴とプロセスを説明できる 2. がん患者の療養の場の特徴と意思決定支援について説明できる 3. がん患者の退院支援・在宅療養支援に必要なアセスメント項目を列挙できる 他		16	10/11 10/12
せん妄ケア	1. せん妄の基礎知識を習得できる 2. せん妄の症状評価や対応について説明できる 3. せん妄ケアに関する自部署の課題を明確にすることができる 他		19	10/22 11/3 12/17 2/25
コミュニケーションスキル	1. がん患者と家族の心理的特徴を理解できる 2. がん患者と家族とのコミュニケーションの重要性を理解できる 3. がん患者と家族とのコミュニケーションに必要なスキルを理解し、ロールプレイで実施できる 他		25	6/2
がんリハビリテーション	1. リハビリテーションの概念を理解できる 2. リハビリテーションが必要ながん患者の特徴を理解できる 3. 周術期、化学療法、放射線療法、緩和治療におけるリハビリテーションの実際を理解できる 他		12	5/24 6/7 6/22 7/5 7/22
看護研究	1. 自分の関心のあるテーマについて文献検索し、文献を入手することができる 2. 看護研究論文の読み方が理解できる。 3. 看護研究論文を活用して、看護実践の根拠を述べるができる		31	1/15
各種研修報告会	1. 院外の各種研修で得られる知識・技術を知る 2. 昨今の看護の動向を知ること看護実践向上のための学習の機会とする 3. 報告会で学んだ知識・技術をもとに自部署における自己の役割を発揮できる		全看護師	100
メイヨクリニック講演会	テーマ: Increasing HPV Vaccination Rates with Effective Recommendations from Healthcare Staff. (医療者の効果的な推奨により向上したHPV予防接種率) Jen Brickley	全看護師	115	10/31

【補助者研修】

看護補助者研修①	1. がん患者の特徴について述べるができる 2. がん患者の特徴を踏まえ、看護補助者としての関わり方について述べるができる	看護助手 クラーク	看護助手 35 クラーク24	5/29 6/3
看護補助者研修②	1. 患者周囲の環境の汚染について述べるができる 2. 適切な手指衛生のタイミングについて述べるができる	看護助手 クラーク	看護助手 34 クラーク25	12/11 12/16

【院外向け公開研修】

多地点がん看護カンファレン	がん看護に関する合同カンファレンスを通して、全国レベルでがん医療・看護に従事する看護師間の情報共有および相互交流をはかる	全看護師	①62 ②43 ③31	①6/15 ②10/26 ③2/15
がん看護公開講座	1. がん看護の質の向上と発展を目的とした新たな知識・技術および知見について情報発信する 2. 社会ニーズを見据えたこれからのがん看護における看護職の役割を明確にする	全国の各都道府県がん診療連携拠点病院、および、関東甲信越地区の地域がん診療連携拠点病院と国立病院機構病院系188施設の看護師	373 院内26	11/30

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
管理責任者氏名	病院長 西田 俊朗
管理担当者氏名	医療安全管理室長：片井 均 看護部長：大柴 福子 薬剤部長：山口 正和 統括事務部長：廣田 正実 医事管理課長：塚前 護 医事管理室長：石崎 義弘

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務部
		各科診療日誌	総務部
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事管理課
		看護記録	看護部
		検査所見記録	医事管理課
		エックス線写真	放射線部門
		紹介状	医事管理課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事管理室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究企画課
		高度の医療の研修の実績	教育連携係
		閲覧実績	総務課、医事管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事管理室
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室
			診療に関する患者記録は全て（入院、外来問わず）一患者一ファイル方式で管理。 (1) 診療録等は永久保存 (2) 内視鏡フィルム、10年保存 (3) フィルム（内視鏡フィルム除く）、5年保存 (4) 病理、細胞診プレパラート、20年保存 診療録の院外への持ち出しについては、原則禁止。例外的に持ち出す際は、リスクレベル評価に応じたセキュリティ対策を講じる。
			保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは台帳等により管理
			保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳等により管理。規定遵守による体制維持に努めている

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室および放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門		

保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳等により管理。規定遵守による体制維持に努めている

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室 診療の質管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	医療安全管理室
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全管理室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	医療安全管理室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長、医事管理課長	
閲覧担当者氏名	文書管理係長、入院外来係長	
閲覧の求めに応じる場所	総務部総務課、医事管理部医事管理課	
閲覧の手続の概要		
『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年12月5日法律第140号)』及び『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令(平成14年6月5日政令第199号)』に基づき以下の当センター規定に則り閲覧を含む開示手続きを行う。 <ul style="list-style-type: none">・国立研究開発法人国立がん研究センター情報公開手続規程(平成22年4月1日規程第49号)・国立研究開発法人国立がん研究センター情報公開手数料規程(平成22年4月1日規程第48号)・国立研究開発法人国立がん研究センター情報公開審査基準(平成22年4月1日規程第50号) 具体的には、総務部総務課を情報公開窓口として、以下の手続きを行う。 <ol style="list-style-type: none">①開示請求者より、法人文書開示請求書(規定様式)の提出と手数料の支払いが行われる。②①に不備がある場合は、補正依頼公文(規定様式)を送付する。③請求文書の特定と開示可否の審議を行い、審議結果に応じて、法人文書開示決定通知書又は法人文書不開示決定通知書を開示請求者に送付する。④請求の内容により、期限の延長又は事案の移送が必要な場合は、それぞれ規定に基づき通知公文を開示請求者に送付する。⑤③を受け、開示請求者が開示実施を希望する場合は、規定の実施方法等申出書を提出する。⑥⑤の実施方法等申出書及び開示実施に係る規定手数料を受け、文書の開示を実施する。		

(注) 既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：平成30年10月1日改訂</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療に係る安全管理のための基本的な考え方 2) 医療に係る安全管理のための組織及び委員会等に関する基本的事項 3) 医療に係る安全管理のための職員研修 4) 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策 5) 医療事故発生時の対応に関する基本方針 6) 医療従事者と患者との間の情報共有に関する基本方針 7) 患者からの相談への対応に関する基本方針 8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容： 医療安全管理室へ報告される全てのインシデント・アクシデント事例、有害事象事例について、月1回医療安全管理部会で原因分析や再発防止対策、業務改善事項の検討をしている。その後、病院長が委員長である医療事故等防止対策委員会（月1回）に報告・承認後、決定事項を医療安全担当副院長から、リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議（月1回）にてリスクマネージャー・サブリスクマネージャーに伝達し、所属職員に周知徹底を図っている。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の内容（すべて）： ＜全職員研修：医療安全講演会＞ 第1回「患者さんと共に防ぐ医療安全」（H30. 5. 24） 第2回「他病院における医療安全の概要」（H30. 10. 16） *年2回受講率 100%（DVD上映・閲覧含む）</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） 医療安全管理体制の確立・医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、医療事故等防止安全管理規程を定め、医療事故等防止対策委員会、医療安全管理部会を設置。また、各診療科・各看護単位・各部門にリスクマネージャーを配置している。インシデント・アクシデントが発生した場合は、電子カルテにログインして起動するインシデント報告分析支援システム（略称CLIP；有害事象報告を含む）を通じて、各部署より医療安全管理室に報告される体制。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議での説明・指示・伝達（月1回） ・ インシデント防止目標の提示（隔月） ・ 医療安全ニュースの発行（月1回） ・ 職員全員参加の研修会の実施（年2回） ・ 医療安全ポケットマニュアル（約200頁からなり、全職員携行を義務付け）の年1回の更新 ・ 事例集の発行（年1回） </p> <p>○過去3年間の報告件数（インシデント・アクシデント）： 平成30年度 4995件 平成29年度 4363件 平成28年度 4012件</p> <p>○過去3年間の報告件数（診療関連重篤有害事象）： 平成30年度 481件 平成29年度 309件 平成28年度 283件</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> 指針の主な内容： 感染対策の基本的考え方、院内感染対策体制の整備（院内感染対策委員会、感染制御室、感染対策チーム、感染制御室長、院内感染管理者、感染制御室専任医師の設置）、職員に対する研修に関する基本方針、感染症の発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、患者等への情報提供と説明に関する基本方針、その他、院内感染対策推進のために必要な基本方針について。 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> 活動の主な内容： 院内感染発生動向の監視と効率的な院内感染対策が実施できるように、感染制御室および感染対策チームの活動支援を行う。感染制御室、感染対策チームで検討した課題や提案された事項について審議、決定を行う。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の内容（すべて）： <ul style="list-style-type: none"> ＜全職研修：院内感染対策講演会＞ 第1回「薬剤耐性（AMR）対策は感染対策と診療をどう変えるか？」（H30.5.14） 国立国際医療研究センター病院 大曲 貴夫先生 第2回「チームでめざす感染制御」（H30.11.6）当院感染制御室 岩田 敏 感染制御室長 延べ参加人数 2,844名、受講率：第1回100%、第2回100%（インターネット視聴・DVD視聴を含む） ＜その他＞ 実技確認の機会として「感染対策実技トレーニング」（年8回および各部門での開催）など 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無） - 院内感染上重要な病原体の検出時には、微生物検査室から担当医とともに感染制御室に電話連絡され、患者の状態を把握後、当該部署に必要な対応について指示している。 - 病院長には週に2回、感染制御室長もしくは院内感染管理者が院内の状況を日報として報告している。これらをまとめ毎月の感染対策委員会に報告している。 - アウトブレイクが疑われた場合は、速やかに調査・状況把握を開始し、必要に応じて臨時院内感染対策委員会を招集するとともに、全職員対象メールやリスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議を通じて院内全体に対応を周知する体制としている。 - 重大なアウトブレイク発生時などには、保健所など外部機関に報告・相談し、速やかな終息および再発防止を図る体制となっている。 その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> - 流行性ウイルス性疾患について職員におけるワクチンポリシーを整備し、抗体検査結果およびワクチン接種状況を把握するとともに、抗体価が基準を満たさない職員に対するワクチン接種を推進している。 - 感染症診療に関するコンサルテーション体制を整備するとともに、血液培養陽性例は全て感染症医が治療内容を確認し、必要に応じて介入している。 - 抗菌薬の使用状況を把握し適正使用を推進している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年7回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>2018/4/3 薬剤管理・麻薬管理・抗がん剤取扱い 2018/6/19 麻薬管理について 2018/9/28 新規採用薬剤と、増えるオピオイドの適正/安全使用 2018/11/12 患者の権利/虐待対応/関連法規（薬機法） 2018/11/15 ペン型インスリン注入器患者指導のコツとツボ 2018/11/21 ペン型インスリン注入器患者指導のコツとツボ 2018/2/25 バイオシミラー製剤について</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 薬事委員会による医薬品の採用検討と採用薬整理 医薬品の適正な購入及び各種規制を遵守した適正な管理 病棟常備薬の適正な配置と保管・管理状況の把握および指導 外来及び入院患者の処方薬の調剤及び指導 入院患者への医薬品の使用 医薬品情報の収集・管理・提供 持参薬鑑別による情報収集と管理</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： 造血幹細胞移植後のアデノウイルス感染症に対して、本邦未承認であるCidofovirを使用 Cidofovirは、米国で「AIDS患者におけるサイトメガロウイルス(CMV)網膜炎」の適応がありその他のCMV感染症、アデノウイルス感染症などに対しては米国では適応外使用となる。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 病棟薬剤師による各病棟への医薬品安全使用に関する情報周知の徹底 安全性速報(ブルー・イエローレター)の院内周知の徹底 薬剤部HP・コンテンツの改善 投与時に注意が必要な薬剤に対する注意喚起を目的とした薬袋のコメント表記の工夫 複数規格のある薬剤の規格の取り違え防止を目的とした表示名称の工夫 同種同効薬の採用に際し、安全使用を目的として力価・包装等の院内資料を作成し配布 ハイリスク薬に対する注意喚起のため、定義と注意事項を周知 後発医薬品への切り替えに当たり、安全使用を目的として医薬品名の表示に先発医薬品名を付記 職業曝露防止や適正な無菌混合調製を目的とした、休日体制下での抗がん剤無菌調製業務の実施 適応外使用、未承認薬使用の把握及び申請における管理 院内製剤の採用検討及び各科共通部分の同意説明文書作成 抗がん剤レジメン審査の管理 医薬品マスター(HIS、部門システム)の作成、削除、変更</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<放射線部門>

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3～4回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新規医療機器設置後、定期点検後ならびにバージョンアップ後に添付文書に基づく使用方法、注意点、変更点、管理方法等について研修を実施</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>職員による日常点検の実施と不備事象の適宜報告 機器メーカーによる保守・定期点検の計画・実施・報告の実施</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>PMDA登録による情報や国立病院機構からの情報周知等</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：(無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>機器メーカーによる定期点検の実施、職員による日常点検の実施と不備事象の適宜報告 修理・事故原因報告に基づいた機器・ソフトの改修ならびにバージョンアップ 使用・運用マニュアルの定期的な改訂 定期的な勉強会の実施と自己研鑽の推奨 PMDAへの不具合事例の照会 医療安全管理室と連携し、関連職員へのMRI磁場体験の実施 放射線治療に至るまでの全体的な行程を理解する放射線治療行程研修を開催</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

<臨床検査部門>

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年19回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>新規検査機器導入時の院内研修、検査機器の保守点検・消耗品交換・不具合発生時の対応等に関するメーカー研修などを実施。入職者に対する伝達講習。</p>	

③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) 機器ごとの保守点検の主な内容： ISO15189:2012規格に準じたメーカーによる定期点検計画の実施・作業報告書の保管 スタッフによる日常点検の実施および実施記録の保管 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : 無 <p>PMDA、メーカー、国立病院機構からの情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常点検の実施 2) 定期点検の実施 3) 機器操作手順書の整備・改訂・周知 4) 日当直業務実施のためのトレーニング 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

<臨床工学部門>

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 90 回
<ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： 補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器等の特定保守管理機器を中心に研修計画を立て、使用方法、管理方法、注意事項、不具合対応について実施。新規導入医療機器についても導入時、バージョンアップ後等必要に応じて実施。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) 機器ごとの保守点検の主な内容： 除細動器、人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置、電気メス、シリンジ・輸液ポンプ、モニタ類等について、機器購入時に計画を立て、臨床工学技士またはメーカーによって日常点検、定期点検を実施。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無) 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば) : 無 <ul style="list-style-type: none"> その他の改善のための方策の主な内容： PMDAやメーカー、医療安全管理室より情報を収集し、勉強会(説明会)の開催、使用マニュアル改訂、現場管理者へ通知、各会議等で周知して改善している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・<input checked="" type="checkbox"/>歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者として、医療安全担当副院長を任命済み。 医療安全管理室の室長であり、医療事故等防止対策委員会には副委員長として出席している。 また、医薬品安全管理責任者と医療機器安全管理責任者から、報告を受ける体制が構築されている。前年度まで兼任していた医療機器安全管理責任者は、平成31年3月より診療担当副院長が担うこととなった。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> （6名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報の収集・管理・提供は主として薬剤部医薬品情報管理室にて行っており、周知は定期的（月1回）な医薬品情報誌の発行、（年1回）医薬品集の発行、タイムリーなお知らせ文書の発行等を、印刷物・メール・イントラネット掲載等を利用して行っている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>院内で使用する医薬品は薬剤部で一元管理する体制をとっており、医薬品の適応外使用については、薬事委員会（適応外使用小委員会）で審査・報告等を行い、病院長の許可を得て使用をしている。未承認医薬品の使用については、高難度新規医療技術等評価委員会（未承認薬使用小委員会）で審査・報告等を行なう。また、平成28年10月より、未承認医薬品使用、適応外使用、禁忌の使用について、所定の手続きを行っていない処方例について、薬剤師が把握した情報を集約する体制を整えている。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部，職種 薬剤師 ） （所属：各診療科，職種 医師「各診療科長」） （所属：看護部 ，職種 看護師長 ） （所属：臨床検査科，職種 臨床検査技師長 ） （所属：放射線技術部，職種 放射線技師「技術部長」 ）（所属：輸血管理室，職種 医師）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>全死亡症例における最終治療の説明・同意取得確認</p>	

術前せん妄に関する説明・同意書または面談票による説明・同意取得確認

説明・同意書の取得率が低い診療科へ改善指導の実施及び説明文書の新規・改訂作成依頼

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療情報管理係において、退院時要約を含む診療録等の確認・管理を行い、診療統計の一部の算出を行っている。

診療情報管理委員会において、診療録や入院診療計画書の監査を実施している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（ 8 ）名、専任（ ）名、兼任（ 3 ）名

うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 2 ）名

うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名

うち看護師：専従（ 4 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち診療情報管理士：専従（ 1 ）名

うち事務員：専従（ 4 ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・各部署のリスクマネージャー：82名

・活動の主な内容：

1) 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査

（定期的な現場の巡回・点検、理解度の確認、マニュアルの遵守状況の点検）

2) 医療事故防止対策マニュアルの作成及び点検、見直し

3) 部門別に作成されているマニュアルの確認及び見直しの提言

4) インシデント・アクシデント・有害事象報告（インシデント・アクシデント・有害事象事例を体験した医療従事者が、その概要を記載した文書をいう。以下同じ）の収集、保管、分析、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価（改善策の周知確認）

5) 医療安全管理に関する最新情報の把握と職員への周知（他施設における事故事例の把握等）

6) 医療安全に関する職員への啓発、広報（月間行事の実施など）

7) 医療安全に関する教育研修の企画・運営、教育研修の理解度確認

8) 医療安全管理に係る連絡調整

※モニタリング実施状況：

26項目（「患者誤認」「検査・手術等におけるタイムアウト」「採血結果確認」「手術同意書の術式左右記載」「全死亡症例に関するDNAR確認日・取得日確認」「デスカンファレンスの実施状況」等）についてモニタリング

医療安全ニュースやリスクマネージャー会議の周知内容、医療安全講演会の内容、医療事故防止対策マニュアルの所在確認、自部署でおきたインシデントの情報共有方法、医療事故調査制度で報告すべき事案について、医療安全ポケットマニュアルの携帯状況、インシデント報告システムの確認、内部通報窓口の場所と報告方法、患者のアレルギーの入力の方法等について、部署ラウンドでモニタリングを実施

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（9件）、及び許可件数（9件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
当院における新規導入技術について検証を行う。昨年度においては、導入許可の判断が難しい案件を高難度新規医療技術等評価委員会において検討した実績がある。通常新規医療技術等導入においては、書類によって確認することが多いが、評価が難しいものについては疑義を委員会で慎重に判断する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（2件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療提供に関する委員会の事務局業務及び委員会の検討結果の通知に対して承認・非承認を決定し病院長に報告する業務。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (・ 無)

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：平成 30 年 376 件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：

インシデント・アクシデント報告：平成 30 年度 4995 件

有害事象報告：平成 30 年度 481 件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡症例については、平成 27 年 6 月 12 日から、医事管理課から医療安全管理室へ、1 週間毎に全死亡患者リストを報告する仕組みと、令和元年 7 月 5 日より入院患者が死亡した場合は、医師が死亡日時、治療及び死亡前の状況、治療中及び最終治療日から 30 日以内に発生した死亡の有無を遅滞なく報告し、医療安全管理室で内容に問題がないか毎日カルテレビューしている。医事管理課からの死亡患者リストは、医療安全管理室で最終治療に関する説明・同意書の有無や診療内容の確認をし、病院長と複数の副院長によるカルテレビュー結果を医療安全管理室で確認し、再調査となった場合、診療科への確認と医療安全管理部会での分析・対策立案を経て、医療事故等防止対策委員会へ報告・審議となる。

重大事例については、医療安全管理室での説明・同意書の有無や診療内容の確認し、必要時は診療科と症例検討会を実施した上で、医療安全管理部会での分析・対策立案を経て、医療事故等防止対策委員会へ報告・審議となる。

死亡症例、重大事例とも、医療事故等防止対策委員会にて承認された対策は、病院長による関係診療科への指導や、医療安全担当副院長からリスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議にて伝達し、職員に周知徹底を図る体制となっている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り ((病院名：H30 年 11 月 慶應義塾大学病院) ・ 無)

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ ((病院名：H31 年 1 月 慶應義塾大学病院) ・ 無)

・ 技術的助言の実施状況

1. 画像検査未対応の対策続行が望ましい。

実施状況：画像診断検査、病理診断検査の結果報告書の未読対策については、2018 年 11 月検査分から画像検査、12 月検査分から病理検査のレポート対応を開始した。具体的には、2019 年 1 月から毎月、1 ヶ月以上未読であるレポートの患者リストを作成、毎月のリスクマネージャー会議で診療科にリストを配布し、1 週間後に医療安全管理部門に対応状況を報告する仕組みを継続し実施している。加えて、医師が個人的にレポート未読を確認できる方法について院内周知。なお、未読レポート割合は 2~3% 減で推移している。

2. 薬剤の年一回ラウンドに関して、病棟だけでなく外来のラウンドも行う事が望ましい。

実施状況：医薬品の安全使用のための手順書に基づく確認事項におけるラウンドについては、入院と外来それぞれ、年 1 回ラウンド実施。

3. 添付文書上医療材料も医療機器のため研修が必要になるため、実際必要な新規医療材料研修は実施しているため、医療安全管理室としてもその研修を把握することが望ましい。

実施状況：医療材料に関する研修の把握については、参加状況を医療機器安全管理責任者と医療安全管理室で情報共有し、医療機器安全管理委員会に報告とした。

4. SCD 使用率が 100%近くで、全手術患者へのスクリーニングはしっかりと実施している。ただし、必要な人へ使用されていない可能性もあるため、手術数と使用日数から適正な台数を判断し不足している場合は追加で購入する等の対応が望ましい。
実施状況：手術件数の増加に伴い SCD10 台を追加購入した。また、スクリーニングの適応や院内整備も含めて再検討する予定。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況
安全管理に係る相談窓口として、相談支援センターが設置している。
患者へは院内ポスター提示、リーフレット設置等により周知している。その後、相談支援センターから患者医療対話推進室へ対応依頼される仕組みがある。患者医療対話推進室では、相談支援センターや病棟等から相談等を受けた後、関係部署から事実関係等を聴取の上、対応を実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況
「医療安全」研修を新採用オリエンテーションと中途採用・復帰者オリエンテーション合わせて計 11 回実施。
「一次救命処置研修」「MRI 磁場体験研修」「医療ガス安全管理研修」等、各部門と協力し、個別に勉強会を計 15 回実施。
教育研修の効果測定については、e-learning（当院の教育履修管理システム）を活用し、研修内容の理解度テストを実施している。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況
管理者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催
「平成 30 年度特定機能病院管理者養成研修 1 日間」平成 31 年 2 月受講
医療安全管理責任者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催
「平成 30 年度特定機能病院管理者養成研修 1 日間」平成 31 年 1 月受講
医薬品安全管理責任者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催
「平成 30 年度特定機能病院管理者養成研修 継続 1 日間」平成 30 年 12 月受講
一般社団法人日本病院薬剤師会主催
「令和元年度医薬品安全管理責任者等講習会」令和元年 8 月受講
医療機器安全管理責任者：公益財団法人日本医療機能評価機構主催
「平成 30 年度特定機能病院管理者養成研修 2 日間」平成 30 年 9 月受講
「平成 30 年度特定機能病院管理者養成研修 継続 1 日間」平成 30 年 12 月受講

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> (1) 病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験を有し、医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること <ul style="list-style-type: none"> ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務 イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務 ウ 医療安全管理部門における業務 エ その他上記に準じる業務 (2) 当該病院内外において組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること (3) 中央病院及び東病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢と指導力を有していること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・ 公表の方法：病院ホームページ
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有・無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有・無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の2 3第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無		有・無	
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の運営の方針、中期計画、予算及び決算その他の病院の運営に関する重要な事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 病院運営会議の議事概要を作成し、病院全体に周知 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無） 規程上、議長が必要と認める者（外部有識者を含む）を病院運営会議に参加させることができるとしている。 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
西田 俊朗	○	医師	病院長
北波 孝		事務	理事長特任補佐
島田 和明		医師	副院長
大江裕一郎		医師	副院長
片井 均		医師	副院長
朴 成和		医師	副院長
大柴 福子		看護師	看護部長
山口 正和		薬剤師	薬剤部長
奥坂 拓志		医師	内科系部門長
藤元 博行		医師	外科系部門長
山本 昇		医師	臨床研究支援部門長
松田 尚久		医師	検診センター長
麻生 智彦		診療放射線技師	診療放射線技術部長
川村 公彦		臨床検査技師	臨床検査技師長
廣田 正実		事務	統括事務部長
柳沢 直樹		事務	財務経理部長
佐藤 俊幸		事務	企画経営課長
竹下 秀之		事務	財務経理課長
塚前 護		事務	医事管理課長
石崎 義弘		事務	医事管理室長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 公表の方法：病院ホームページ

- ・ 規程の主な内容
理事会規程：病院の運営に関する事項が審議される際には、病院長は理事会に出席し、意見を述べるができる。
組織規程：院長は、病院の事務を掌理する。また、特定機能病院としての機能を確保するために必要な事項に関して、理事長に意見を述べるができる旨規定。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
組織規程：副院長は、院長を助け、病院の事務を整理する。
企画経営部を設置し、センターの業務の企画及び調整に関する事、センターの経営に関する事の事務をつかさどる旨規定。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
国立高度専門医療研究センター合同開催の「医療経営士研修会」等への参加。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年2回（平成30年7月9日、平成31年3月11日）</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1）医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、その他監査委員会として必要と認めるものの業務の状況について病院長、その他監査委員会として必要と認めるものから報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。</p> <p>2）必要に応じ、理事長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見表明を行う。</p> <p>3）1）及び2）に掲げる業務について、その結果を公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・ 公表の方法：病院ホームページ</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○ を付 す）	選定理由	利害関 係	委員 の要 件 該 当 状 況
大西 真	国立国際医療研究センター 病院長	○	特定機能病院の医療安全体制に精通	有・無	1
川崎志保理 （第二回外部監査委員会より）	順天堂大学医学部附属順天堂医院医療安全推進部 部長補佐		特定機能病院の医療安全体制に精通	有・無	1
田島 優子	さわやか法律事務所 弁護士		法律関係に精通	有・無	1
眞島 善幸	NPO法人 バンキャンジャパン代表		患者団体の役員として医療問題に精通	有・無	2
荒井 保明	国立がん研究センター 理事長特任補佐		当院の前病院長として院内診療・医療安全管理体制を熟知	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	1
廣田 正実 （第一回外部監査委員会のみ）	国立がん研究センター 統括事務部長		当院の統括事務部長として病院の体制・組織等に精通	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

理事会、執行役員会及び内部統制推進委員会の整備、開催。

・ 専門部署の設置の有無 (・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・)

・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会、執行役員会、内部統制委員会の整備、開催。病院長はこれらの理事会等に出席。 ・ 会議体の実施状況（年12回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有・無）（年12回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

- ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 通報件数 (年〇件)
- ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (有 ・ 無)
- ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (有 ・ 無)
- ・ 周知の方法：新採用オリエンテーション、医療安全ポケットマニュアル

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 (参考) 公益財団法人日本医療機能評価機構 平成31年1月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

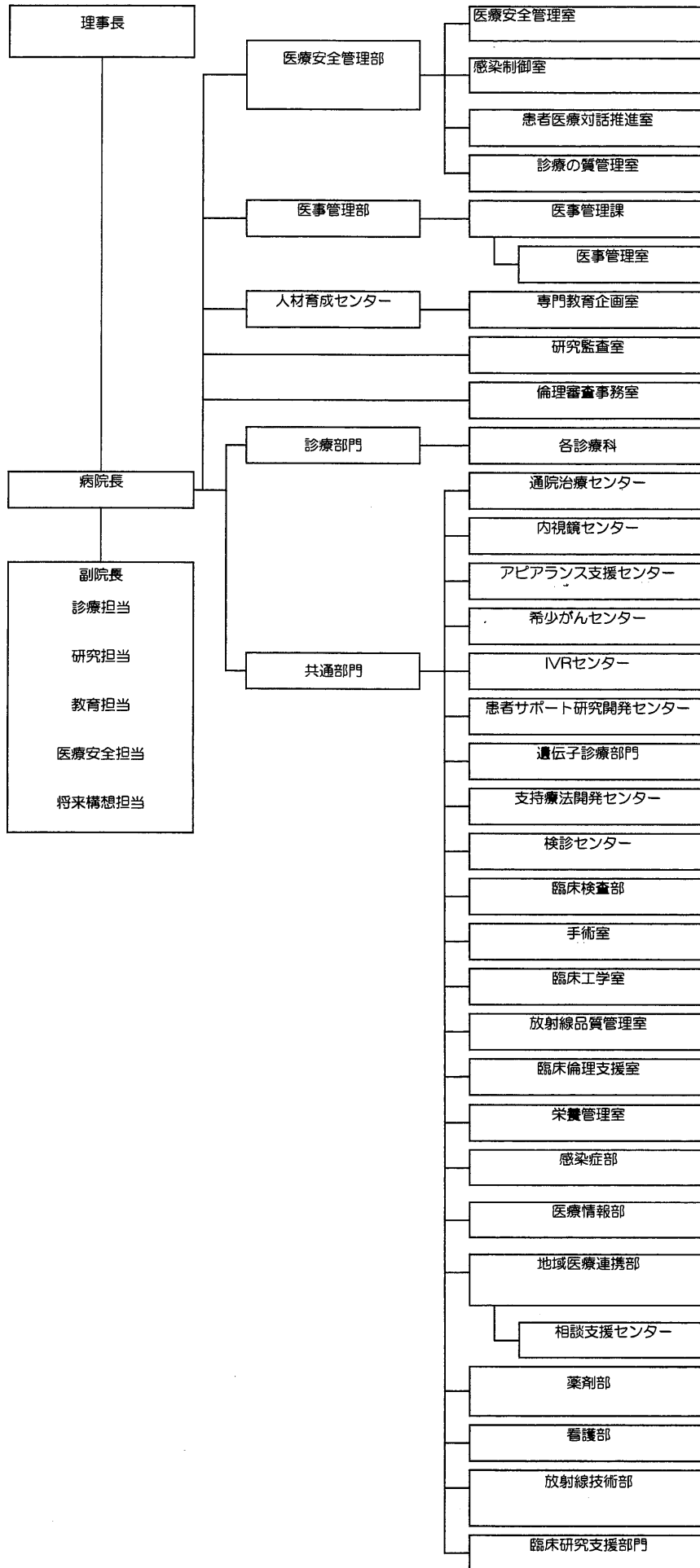
① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 <ul style="list-style-type: none">● ホームページを通して各診療科で提供している医療、先進医療の提供状況、治験の実施状況、研究成果や新たな取り組みについて最新情報を随時公開した。● がんに関する最新知見や研究成果、科学的根拠に基づく診断・治療法について広く国民に情報提供を行うために、プレスリリースやSNSの活用、積極的な取材対応を行い情報発信した。● 患者や医療関係者へは広報誌も発行し、職員の顔の見える丁寧な情報提供を行った。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 <ol style="list-style-type: none">1. 主たる悪性腫瘍に対して開設されている内科・外科間の連携 ※組織図別添2. 特化した治療（放射線治療、放射線診断、内視鏡センター、通院治療センター等）と各診療科との連携3. 複数の悪性腫瘍や、患者の状態によって診療科間における協力が必要な場合の連携（転移がん、希少がん等）4. その他	

中央病院 組織図

2019年7月1日時点



中央病院 診療体制図

2019年7月1日時点

